2

真理の御魂（みたま）
最聖 麻原彰晃尊師のズバリ解答集

尊師に聞く！

【人生開拓編】



AUM PRES

2

真理の御魂（みたま）最聖麻原彰晃尊師のズバリ解答集

尊師に聞く！

【人生開拓編】

AUM PRES

はじめに

最近、有識者の間で、麻原彰晃尊師をして宗教界の第一人者とするという風評が高まっている。確かに、仏教・キリスト教・ヒンドゥー教をはじめとするすべての宗教に精通し、チベットやスリランカの聖者方から「瞑想の達人」「偉大なる宗教的指導者」と称されるだけあって、宗教の分野で経験・知識ともに尊師の右に出る者は、現代の日本では皆無に違いない。

しかし、麻原尊師は宗教の分野だけでスペシャリストだというわけではない。医学・科学・占星学・音楽その他の様々なジャンルで、それぞれの道の大家と呼ばれる人をもしのぐ知識を持ち、その知識の活用法を体得し、実際に「一人の人が、よくこれだけのことを……」と感嘆せざるを得ないほどの目ざましい活動をされているのである。もっとも、麻原尊師が多岐にわたる分野でのスペシャリストぶりを遺憾なく発揮されている背景には、最終解脱者の純粋観照智による的確で素早い判断が欠かせないことはいうま

でもない。

本書『尊師に聞く！　2』は、様々な分野に精通しておられる尊師の純粋観照智がさえわたった質疑応答集である。宗教だけにとどまらず科学・医学・社会問題・人生等の疑問に対するキレのある解答は、人生の問題に悩んでいる方や、解決できない疑問に突き当たっている方の灯明となるに違いない。

本書によって、一人でも多くの方が心の重荷から解放されることを願って。

一九九二年九月

ＡＵＭ　ＰＲＥＳ

尊師に聞く！

2

【人生開拓編】

E N T S



C O N T

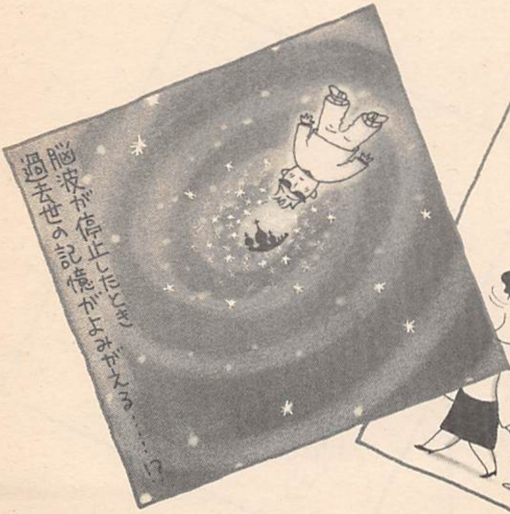




E N T S

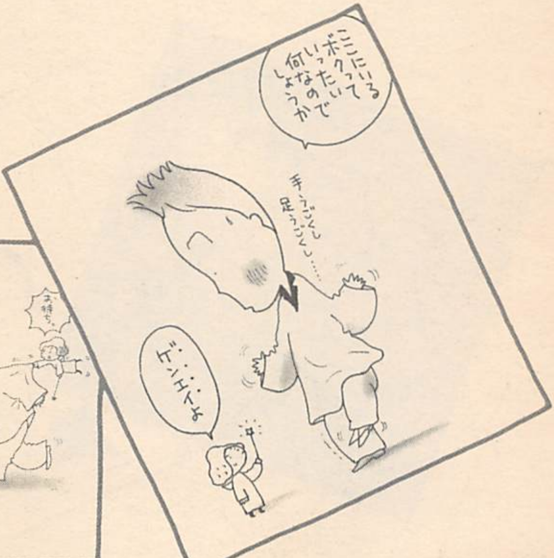


C O N T



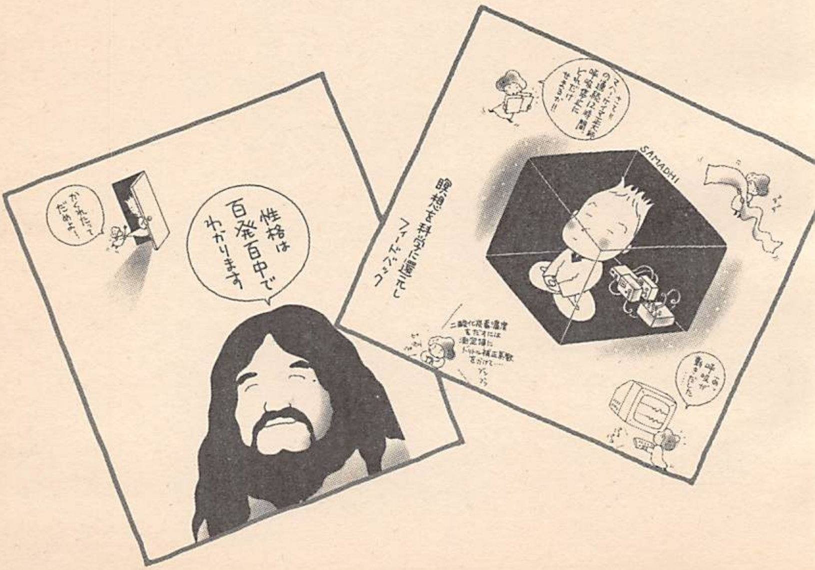


E N T S


ここにいる
ボクって
いったい
何なので
しょうか
手うごくし
足うごくし……
ゲ…ン…エ…イよ


悪い情報を
入れる友と
つきあわず
徳の高い
智慧ある友と
つきあいなさい
お待ち。
さぁ
今夜も
くりだそうぜっ

CONT



序章

尊師に聞く前に

この「尊師に聞く前に」は、本書を読み進めるに当たって、ぜひ知っておいていただきたい基本的な知識をまとめた章です。

修行で得た経験と最終解脱者の純粋観照智を駆使してズバリと斬る麻原尊師の解答は、専門的なことがわからなくても十分納得できるものです。しかし、解答の背景にある真実の宇宙観や仏教・ヨーガ理論の基本的事項を知っていれば、より深く、そして広く理解することが可能になるでしょう。

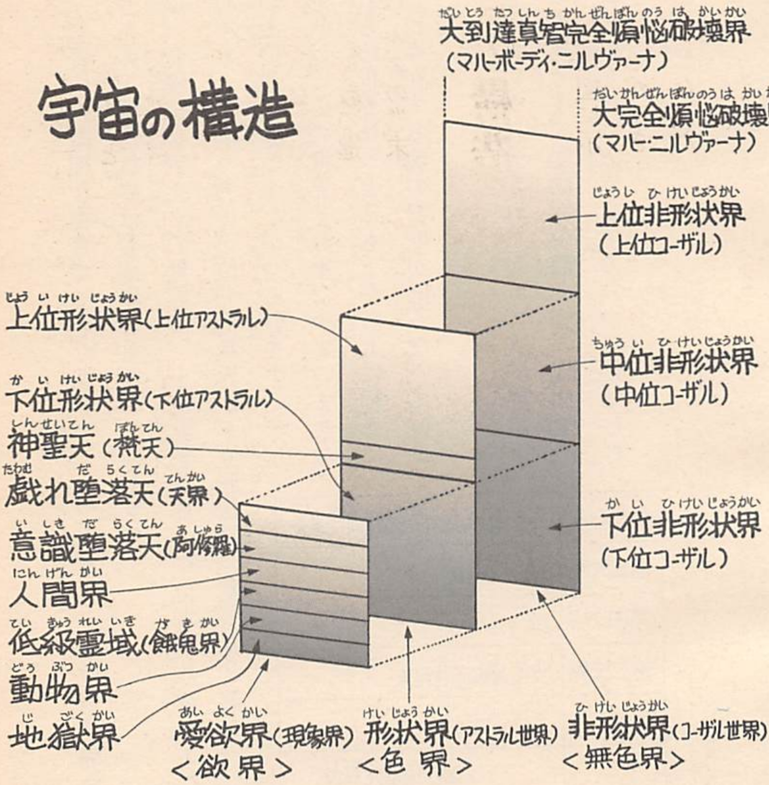
また、オウム真理教で進めているパーリ聖典の翻訳による訳語と従来の仏教用語の比較については、本書の巻末にある言語対比表を参照してください。

宇宙の構造

この宇宙は、次の図に示すように、大きく愛欲界（あいよくかい）・形状界（けいじょうかい）・非形状界（ひけいじょうかい）・大完全煩悩破壊界（だいかんぜんぼんのうはかいかい）に分類することができます。

愛欲界は、現在わたしたちが生きている人間界も含まれ、熱優位の粗雑な物質でき

宇宙の構造


大到達真智完全煩悩破壊界
（マハーボーディ・ニルヴァーナ）
大完全煩悩破壊界
（マハー・ニルヴァーナ）
上位非形状界
（上位コーザル）
中位非形状界
（中位コーザル）
下位非形状界
（下位コーザル）
上位形状界（上位アストラル）
下位形状界（下位アストラル）
神聖天（梵天）
戯れ堕落天（天界）
意識堕落天（阿修羅）
人間界
低級霊域（餓鬼界）
動物界
地獄界
愛欲界（現象界）
<欲界>
形状界（アストラル世界）
<色界>
非形状界（コーザル世界）
<無色界>

ています。

形状界は、音優位の微細な物質でできた世界で、上位形状界と下位形状界に分かれており、そのうちの下位形状界は愛欲界と重なっています。

非形状界は、光優位のデータの世界で、上位非形状界・中位非形状界・下位非形状界の三つに分けられ、そのうちの下位非形状界が下位形状界・愛欲界と重なっており、中位非形状界が上位形状界とつながっています。そして、上位非形状はどこの世界とも重なっていません。

さて、これらの世界は、どこも下から上に行くに従って、そこに存在する魂の密度が低くなっています。

愛欲界はさらに六つに分かれており、人間界は下から四番目の世界です。愛欲界の最上位の戯れ堕落天は、第一天界から第六天界までの六つに分けられます。

第六天界	為他神以神通創造欲望満足従事天	
第五天界	創造満足天	
第四天界	除冷淡天	
第三天界	支配流転双生児天	
第二天界	三十三天	
第一天界	四大王天	(東) 堅固王国天
		(南) 成長天
		(西) 統治変化自在天空天
		(北) 守庶民外傷天

戯れ堕落天

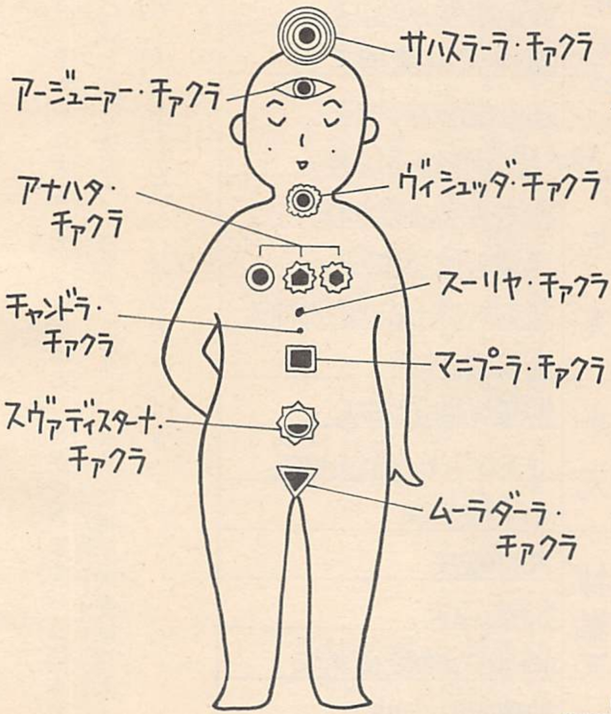
上位形状界、上位非形状界は、それぞれ大きく四つに分けることができます。この本で度々説明される「神聖天」とは上位形状界の一番下の世界で、さらに神聖衆愛欲神天・神聖代議愛欲神天・神聖臣天・大神聖天の四つに分かれています。

非形状界		非認知非非認知境
		無所有境
		識別無辺境
		空間無辺境
形状界	清潔居住天	超越童子愛欲本質神天
		善現象愛欲神天
		善安楽愛欲神天
		超燃焼愛欲神天
		超空間愛欲神天
		偉大果報愛欲本質神天
	美天	総美愛欲本質神天
		無量美愛欲神天
		かすかな美しさの愛欲神天
		美愛欲神天
	光天	無量光愛欲神天
		かすかな光の愛欲神天
		光愛欲神天
	神聖天	大神聖天
		神聖臣天
		神聖代議愛欲神天
		神聖衆愛欲神天

17形状界と4非形状界

●チァクラとクンダリニー

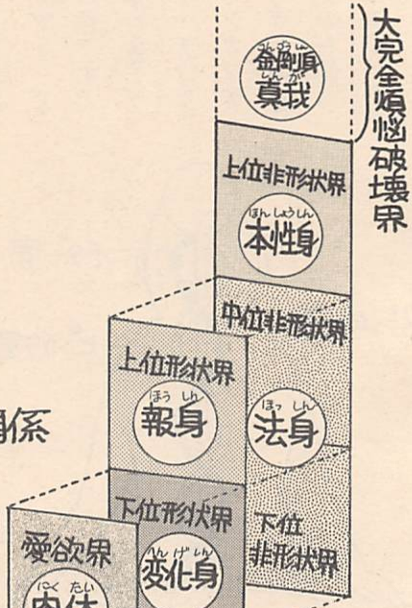
チァクラとは人間の身体にある霊的センターで、だれでもそれぞれの場所に持っているのですが、普通の人はそれが眠った状態で働いていません。修行によって尾てい骨のところに眠っているクンダリニーという霊的エネルギーを覚醒させ、それを上昇させることによっ



て徐々に開発されていきます。

チャクラは、身体の下部に位置するものに比べ、上部へ行くほど次元が高くなっています。

このチャクラには、それぞれ特別な身体が存在しており、修行によって自在に動かすことができるようになります。この身体を使って形状界・非形状界へ行くことができます。

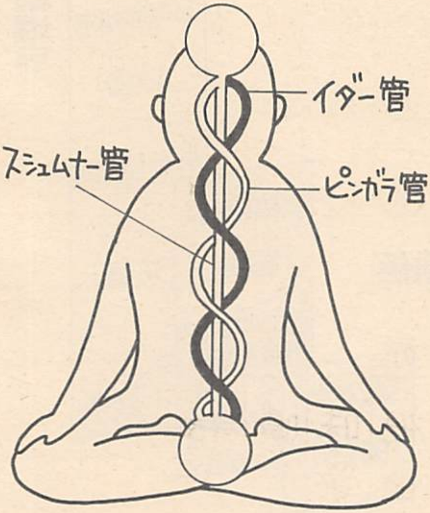


三つの世界と五つの身体の位置関係

三つの管

わたしたちの身体には、エネルギーを通す七万二千本の管（ナーディー）がありますが、特に重要なのは、イダー、ピンガラ、スシュムナーの三つの管です。

イダー管は、尾てい骨の左側から各チァクラを通過してアージュニァー・チァクラの左側へと通っている管、ピンガラ管は尾てい骨の右側から各チァクラを通過してアージュニァー・チァクラの右側へ至る管、スシュムナー管は中央の管です。



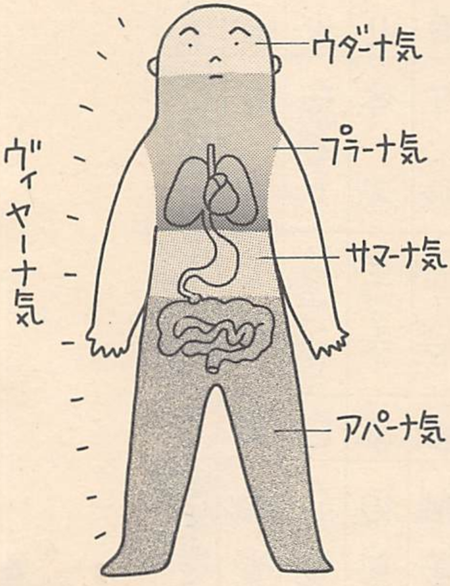
五大エレメント

　わたしたちの肉体は、地・水・火・風・空の五つのエレメントによって構成されています。地元素は肉や骨の固定的な形を持ったもの、水元素は血液・精液・胆汁といった水分、火元素は体温、風元素は呼吸、空元素は鼻の穴、口の中といった空間を表わしており、それぞれ、ムーラダーラ・チァクラからヴィシュッダ・チァクラに対応しています。

元素	対応する体の構成要素	対応するチァクラ	色	対応する感覚器官
地	肉・骨	ムーラダーラ	黄	嗅覚
水	血液などの水分	スヴァディスターナ	白	味覚
火	体温	マニプーラ	赤	視覚
風	呼吸	アナハタ	緑	触覚
空	空間（肺など）	ヴィシュッダ	青	聴覚

五種の気

わたしたちの身体を動かしているのは、アパーナ気、サマーナ気、プラーナ気、ウダーナ気、ヴィヤーナ気という五種の気です。アパーナ気はへそから足の裏にかけて、サマーナ気は心臓からへそにかけて、プラーナ気は鼻先から心臓にかけて、ウダーナ気は頭から鼻先にかけて働いており、ヴィヤーナ気とは全身にわたって体を守っている〝オーラ〟のことです。



三体質

わたしたちの体質は、胆汁体質、粘液体質、風体質の三つに分類することができます。
胆汁とは胆嚢（たんのう）から分泌される消化剤、粘液とは例えば粘膜に付着しているどろどろとしたもの、風とはナーディーを駆け巡っているエネルギーを指しています。

第1章　宗教は一つの道

道徳



正しい教え・真理というのは、一般常識や道徳に反しないものなのでしょうか。



そうだね、テーラヴァーダの仏典の中にも「一般的な道徳的な教えにはつき従い」というのがありますから、それはそれでいいと思います。

ただ問題は、それより高いレベルになったときに、常識的な部分でカバーできるかどうかというのはまた別問題であるということがいえるでしょう。しかし、いかなる教えであろうとも、その背景にある論理というものは、はっきりしていると、明白であるということはいえます。



ということは、オウム真理教の考えでは、信者でなくとも正しい行ないをなしてる者は、それはそれなりに認めると考えていいんでしょうか。



どの人もオウム真理教の信者になりなさいとはいいません。例えば、オウム真理教の活動の中で、スリランカのテーラヴァーダ仏教を保護している部分もありますし、あるいは、チベット仏教を保護している部分もあります。

ということはどういうことかというと、彼らの実践は、それなりに評価しているということがいえるでしょう。

（九二年六月十四日・名古屋大学）



偉大な仏教哲学者


本当の宗教というのは、完全な体系があって、それをクリアしていく、そのプロセス――つまり、最初に真理があって、それを知って、それをクリアしていくということでしたが、他の優れた哲学者ですとか思想家というのは、そこに存在している真理を学ぶのではなくて、それを試行錯誤して見つけていきます。そういう生き方にも僕はひかれるんです。ところが、宗教だと、ただ救われたいという気持ちも持ってしまうわけで……。


言っていることはよくわかるよ。ただ、だとしたらね、なぜ君が東京大学にいるのかなという質問があるよね。つまり、どういうことかというと、最高の大学に入るということは、実際素晴らしい教授がいて、その教授の教えを学び、最短で自分の目的を達成し、例えばその教授を超えるということになるわけでしょ。学問というのはそういうものだと思うけれど、どうだそれは。

宗教も同じだよね。例えば、哲学、まあ仏教哲学となぜいわれるかというと、すべてが完璧な論理なんだね。ただそれは、例えばサキャ神賢（しんけん）――まあ、お釈迦様（しゃかさま）だよね。わたしたちはサキャ神賢と呼んでいるから、サキャ神賢、つまりサキャ族の賢い神様というふうにとらえてほしいわけだけれども――このサキャ神賢の教え、この教えがどれくらいの期間でできたかというと、サキャ神賢の話を聞くと、要するに五神通、五つの神通力を得てから四アサンキャ十万カルパ――十万カルパというのは、十万回この宇宙が創造され破壊された間だけれど――それほど長い間ずっと修行なさって、今から二千六百年前、真理勝者、あるいはバガヴァン、つまり世尊として登場なさったんだということなんだよね。

それだけ偉大な経験、偉大な知識、あるいは偉大な分析を行なった、そういう教えが存在しているのにだよ、重箱の隅をつつくような一部の哲学、あるいは自己の思索というものが価値があるかという問題があると思うんだよ。

では、どういうことかというと、例えば何の条件もないところに子供を放り出したと。そして、そこから例えば足し算の法則を発見しなさいとか、あるいは引き算の法則を発

見しなさいとか、あるいはかけ算や割り算の法則を発見しなさいというのは、これは大変なことだと思うんだよね。でも、その法則を子供たちが発見したからといって、いったい何になるんだと。もちろん、その子供たちにとっては智慧の進歩という意味においては意味があるかもしれないけれどもね。わたしの言いたいことはわかるよね。

つまり、それだけ完璧な教えがある以上、その完璧な教えの全体系を、まず初めは疑問を持ちながらでも構わないから理解し、そして、自分の中でしっかりと論理的に分析していく訓練をすることの方がわたしは価値があると思うんだけれど、どうだそれは。



それですと、個人の尊厳が非常に軽視されているという気がしますが。



その尊厳そのものが、もうすでに慢なんだよ。つまり、尊厳そのものを超越することが修行課題にあるわけだから、その尊厳という言葉そのものが問題になってくるわけ、真理を実践する場合はね。

そして、個人の尊厳を壊して、より高い自我を形成していく、あるいはより高い霊性をつくり上げていくことが修行なんです。

（九一年十一月二十三日・東京大学）


最初っからあっちのケーキにすればいいじゃなあーーい!!
TRUTH
偉大な経験
偉大な知識
偉大な分析
カンペキなケーキよ

仏教の流れ



仏教にはいろんな宗派がありますね。大きくいうと大乗仏教と小乗仏教になるのでしょうし、そういうものはどこがどう違っているのでしょうか。



まず、お釈迦様（しゃかさま）の教えというのは原始仏教に最も正確に伝えられています。しかも、それは、今スリランカに伝わっている経典を最も古いものとします。

仏教には大きく分けて二つのタイプの弟子がいたわけだけれど、一つは上座部といって一生懸命学び修行した人たちと、それから、学ぶことよりも、どちらかというと実践によって法を広めた大衆部という、二つの流れがあったわけだね。

その大衆部というのは、要するに、「上座部というのはただ個人の解脱・悟りだけを求めている」という批判を土台として大乗の教えというものを展開していったわけだよ。

例えば鎌倉仏教の浄土宗、あるいは浄土真宗等の教えというのは、その大衆部の教えの阿弥陀信仰（あみだしんこう）に属するわけだね。

　ただ、道元が持ち帰った宗教というのは、どちらかというと、上座部に属するわけだけれど、しかし、それも北伝系の教えであって、上座部の教えの一部を持ち帰って日本に伝えたと。ところが、お釈迦様は完璧な人だったわけだから、もともとの原始仏典にはすべてが説き明かされていると。つまり、大乗といわれている教えも、それからタントラ・ヴァジラヤーナといわれている部分もすべて、上座部の教えの中に含まれるんだというのが、今のわたしの見解なんだよ。

　これは、おそらく世界でもわたしだけが採っている見解だと思います。それはなぜかというと、一般的には南方に伝わったもの、イコール小乗という教え、つまり小さな乗り物という教えで否定されていると。しかし、それは日本に南伝のパーリ三蔵が正確に翻訳されていないがための悲哀であるということだね。

　現に北伝の最高峰であるチベットにも、その南伝のパーリ三蔵に記されている大乗、あるいはタントラ・ヴァジラヤーナの教えというのは伝わっていないということが判明しているわけだよね。

（九一年十一月二十三日・東京大学）

日本密教



日本の密教で一番有名なのは弘法大師空海（こうぼうだいしくうかい）だと思いますが、彼のレベルはどの程度だったのでしょうか。



彼のレベルというよりも、日本の密教全部についてもいえることなんだけどね、限界は阿羅漢（あらはん）だよ。

じゃあ、なぜ、阿羅漢と言い切れるか。もし、阿羅漢ではなく仏陀（ぶっだ）の道を歩いている人だったら現世利益は説かない。

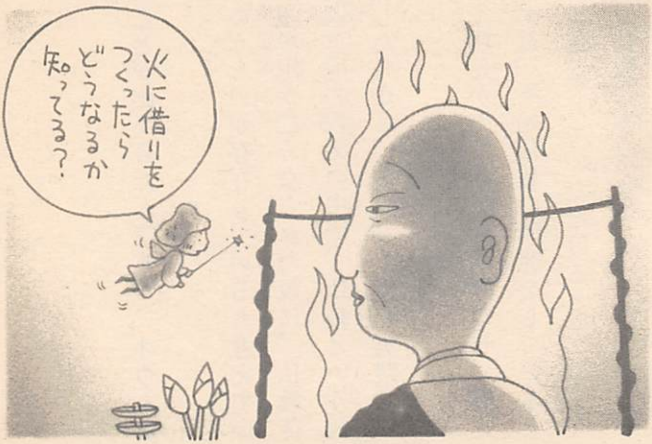
それはなぜか説明しよう。すべてのカルマというものは原因によって結果が生じる。これはわかるな。例えば護摩法（ごまほう）を一つ取ってみようじゃないか。護摩火に、護摩木を供養する。その護摩木に願望を書く。炎の力によって、願望を成就するとしよう。そのときの原因は何だ。願望成就の原因は火によるトランス、つまり一種の精神集中だ。

そして、それはアストラル世界（形状界（けいじょうかい））に影響を与えている。つまり願望を成就す

ることで、アストラル世界に借りを作った形になる。そうしたら結果としては、願望は成就するかもしれないけれど、次は必ず火によって痛めつけられるという結果となる。火によってプラスのエネルギーを受けたわけだから、次は火によってマイナスのエネルギーを受けることになる。

だとしたら、そういう法は真理の法であるか、あるいは邪法であるか、考えなさい。そうすると、その法を展開している弘法大師空海の、少なくとも精神的ステージ、原因と結果に対するものの考え方、洞察力というものは、真理を見抜いているとはいえない。この場合彼の霊的ステージは別だけれどね。どうだ。いいかな、答えはそれで。

（八八年年一月二十三日・東京本部）



仏教とヨーガ



ビデオを見せてもらったら、そこでヨーガのことが出てきたんですが、オウム真理教というのは、ヨーガなんでしょうか。



君は、仏教は何だと思うか。君たちは仏教というものが存在していると考えているかもしれないけれど、仏教というのは、釈迦牟尼（しゃかむに）が亡くなられた後に、仏教徒たちがまとめた教え、これが仏教です。そして、釈迦牟尼の教えの中で、仏教という言葉は一度も使われていません。では、彼は何を実践したのかと。彼はヨーガを実践していたんだよ。

ということは、オウム真理教の中で、ヨーガという言葉が出てきても当然だし、例えば、インド・ヨーガの大家である聖者アカンダナンダは、原始仏教の研究をしているということから見ても、わたしの言っている意味合いが理解していただけると思います。つまり、日本というのは、完全に仏教国といいながら仏教音痴なんだね。



（九一年十一月一日・信州大学）

真理勝者のヴァイブレーション



仏陀(ぶっだ)である釈迦(しゃか)が悟りを開いた後に、人々に法を説いたときには、人間の言葉もわからない動物もその教えに聞き入っていたというんですけれど、それについてはどうお考えでしょうか。

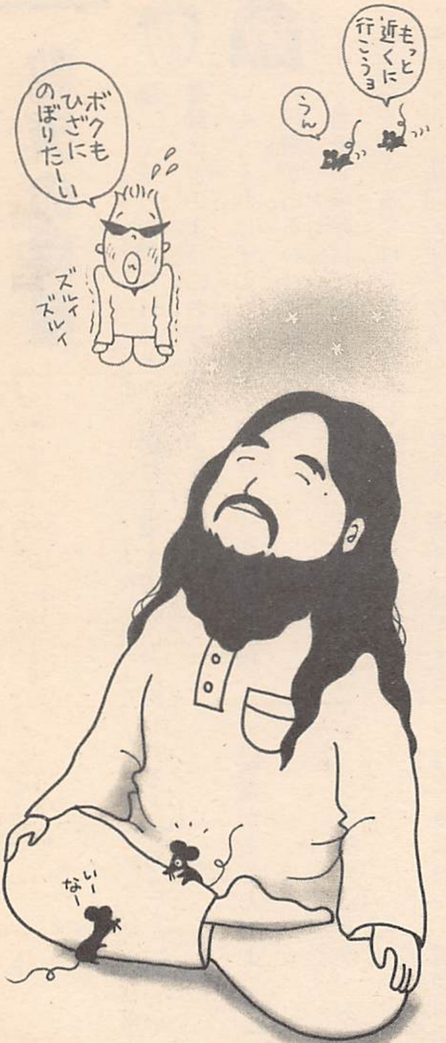


それは事実だと思うね。というのは、真理勝者の発するヴァイブレーションというのは、大変神聖なものであると。例えば、オウム真理教でわたしが法を説くときも、例えばネズミがね、わたしの体に乗っかってきて、体の上で遊んでいるという状態もある。

これは、動物界というものは、完全に動物連鎖によって恐怖を覚えているんだね。ところが、仏教の修行の中に非害心、つまり相手を害さない修行、あるいは非暴力・非残酷という修行があるわけで、サキャ神賢(しんけん)の場合、恐怖を全く与えない心の働きがあられたので、動物たちも神聖な気持ちになれたということだよね。

それからもう一つは、これは物理の話になるわけだけれど、人間が聞いている可聴範囲の声ではなく、例えば低音範囲とか高音範囲には別の成分があって、その別の成分は、動物に対して、一種のヴァイブレーションとして会話することができるといわれています。ですから、それは正しいと思います。

（九一年十一月一日・信州大学）



救済の段階



踊って悟りが得られるとか、題目を唱えて救いが得られるということに対して、尊師はどのようにお考えでしょうか。



いや、それはそのとおりだと思うよ。つまり、救いにも段階があるんだよ。十三の段階があるわけ、救いには。

その一番低い段階は、信を持つ段階と。これは、例えばマントラを唱えるとか、あるいは題目を唱えるだけで救われるという人たちだね。

それから、法則に従う段階と。これは、煩悩は滅尽することはできないが、真理の法則を生活の一部として実践し、そして救済される人と。

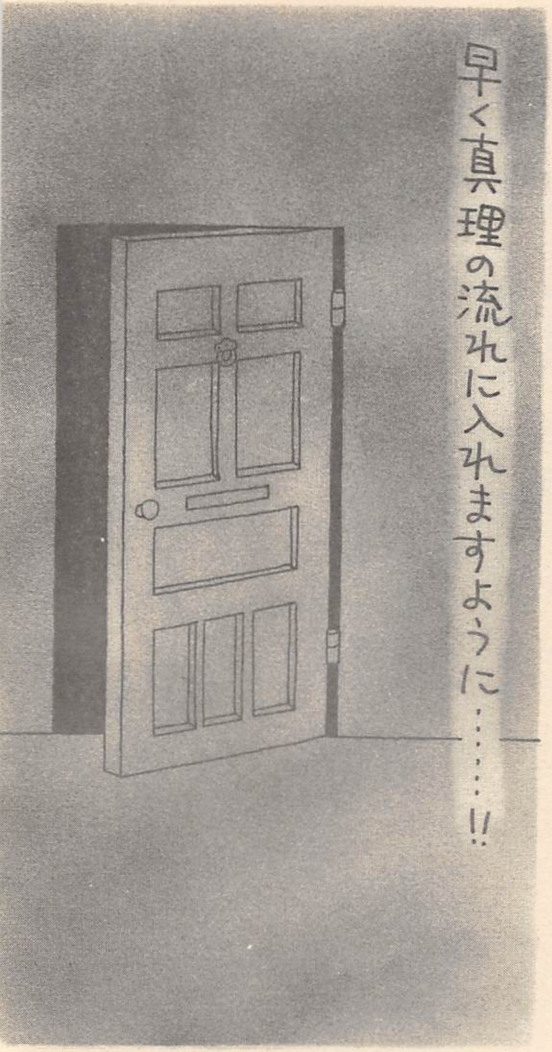
それから、この現象の世界、愛欲の世界に七回転生して最終の段階に至る救われ方と。

それから、家から家へと三回、四回転生して、つまり、豊かな家から家へと、三回、四回転生して——これは人間界ということね——で、救われるタイプと。

それから、人間に一度だけ転生して最終的な段階に至る魂と。
それから、天界に一度だけ転生して最終的な段階に至る魂と。
それから、形状界の最上位である超越童子天へ転生して、そこから最終段階に至る魂と。
それから、形状界に転生して、そこで修行しながら最終段階に至る魂と。
それから、形状界に転生し、何もしないで最終段階に至る魂と。
それから、形状界にいったん入り、そこから瞬間的にポアされて最終段階に至る魂と。
それから、修行して死に、それから中間状態に入り、で、最終段階に至る魂と。
それから、死後、即意識を移し変え、最終段階に至る魂と。
それから、死後、即最終段階に至る魂と。
で、生きながらにして最終段階に至る魂と。
この十三あるんだよ。だから、その十三のどのパートに属するのか、つまり、この「信」というのはすごく広い意味が含まれているから、例えば「南無阿弥陀仏」とか「南無妙法蓮華経」――これは「『妙法蓮華経』に帰依しますよ」という意味があるわけだけ

れど、南無阿弥陀仏というのは「阿弥陀如来に帰依しますよ」という意味があるわけだけれど――そういうマントラを一生懸命唱えることによって信を培い、いずれかの生でそういう真理の流れに入り、済度されるとするならば、第一段階の済度の段階ということになるよね。いいかな。

（九一年十一月二十三日・東京大学）




見つけた
SHINRI!!
ようこそ

偶像崇拝



初期の仏教では、偶像崇拝を禁止していたはずですが、この本（オウム出版の書籍）にあるような絵は、偶像崇拝に当たると思います。そこらへんはいかがでしょうか。



サキャ神賢は、偶像崇拝を禁止したわけではない。サキャ神賢が禁止なさったのは、仏陀釈迦牟尼以外のものについての崇拝を禁止なさったんです。だから、原始仏教を最もきちんと押さえているラオスにおいても仏像はあります。それは日本の仏教の研究家の間違いです。

　例えば、ビンビサーラ王がね、「何を崇拝したらいいか」と尋ねたとき、サキャ神賢は「わたしの髪の毛を崇拝しなさい」といって、髪の毛を与えられたという話がある。これも一種の偶像だよね。どうかな、それは。

　つまり、心の内側にあるアートマン、真我だけに対する崇拝ではなく、そのような形

で具体的な、エネルギーのこもったものに対して崇拝するというのは、インド仏教の常識です。

（九一年十一月一日・信州大学）



無我と非我



インド的な仏教というものは、すべての存在にアートマンを認めない「無我」、それから無常なものであるということを主張するものだと思っています。その場合に、わたしが無我である、つまりわたしという者は本当には存在しないということと同時に、自分がないんだから他人もなくなるわけですね。で、本質的には他人の存在もないと。そうした場合に、他人が本当には存在しないという立場で、いったいどのように他の人とかかわるべきかとお考えでしょうか。



まず、その無我の論については、チベットと、それから中国の仏教間の争いで、アティーシャ（編集部注…インド人学僧）の敗北、つまり、中国仏教の敗北という形で終わった。ところが、今あなたの勉強している哲学自体のとらえ方が〝無我〟ということでそのときと同じ過ちを犯しているわけだね。

実際問題〝無我〟という言葉は正しくなくて、〝非我〟という言葉の方が正しい。つま

り「我（われ）に非（あら）ず」と。つまり何を言いたいのかというと、例えば、『大完全煩悩破壊経』――これは漢訳でいくならば『大般涅槃経』だね――とか、あるいは『創世期経』あるいは『転輪獅子吼経』等に、はっきりと釈迦牟尼は、〝アッタ〟――パーリ語でね――つまり、サンスクリット語では〝アートマン〟の存在を認めています。
で、その認め方として、どのような形で認めているのかというと、アートマンは三界には存在しないと。つまり三界には存在しないとは、この欲望の世界、形状の世界、非形状の世界には存在しないと。
それからもう一つは、君のわかりやすい言葉を使うならば五蘊、つまり肉体、それから感覚、それからイメージ、それから経験のとらわれ、それから識別、この五蘊には存在しないと。この五蘊というのは、これらを集積したものがわたしたちであると釈迦牟尼はとらえていらっしゃるわけだけれど、その五蘊には存在しないということなんだね。
ではどこに存在するんだと。それは三界と五蘊を越えたところに、アートマンは存在するんだと、アッタは存在するんだということなんだよ。
だから、そうなってくると、今度はどうなるかというと、ヴェーダーンタ的な考え方

ではなくて、サーンキャ哲学的な考え方になってくるわけだね。



サーンキャ二元論ですね。



うん。サーンキャ二元論とは何を言いたいかというと、三界と真我（しんが）との区別と、五蘊と真我との区別になるよね。

そうなってくると、その真我の特徴とは何かというと、つまりアートマンの特徴とは何かというと、先程言った絶対自由・絶対幸福・絶対歓喜であると。そしてその本質的なものは、ほとんど自と他の区別は存在しないと。しかし、ちゃんとした一応個我は存在しているんだということだよね。



わかりました。じゃあ、ちょっと確認したいんですけど、要するに、尊師は、アナートマン（an-ātman）的――否定詞の an ね――わたしではない、非我ととるのが正しい仏教だというふうにお考えになっているのですね。



そうです。それは、パーリ語を英文から訳す場合の辞書でも同じように「アッタではない」ととらえています。

ただね、あなたのような考え方を、実際問題としてスリランカの高僧がとっている場合もあります。日本の仏教学者でも、中村元先生は無我というふうにとらえているし、増谷文雄先生は非我ととらえています。

（九二年六月十四日・名古屋大学）



真理のステップ



オウム真理教のベースは仏教であると思うんですが、先程配られた本を見ていると、キリスト教の黙示録の話が扱われていたり、ヒンドゥー教のシヴァ神が出ていました。仏教の無常観と、キリスト教のプロテスタント的な絶対神の前の人間の無力感はまるで違うものですし、ヒンドゥー教のカースト制というのは、仏教が打倒しようとしたものだと思うんです。で、そういう相容れない世界観を持った三つの宗教を、なぜその本の中で同列に扱っているのでしょうか。



つまり、真理にはステップがあると。それは、キリスト教は仏教観による神聖の世界、これは生存のみの世界へ至るための修行を行なうわけです。で、この段階というのは、サキャ神賢も何生も何生も繰り返していらっしゃると。これはわたしもそうだがね。

その段階が通過すると、次はその生存の世界の最高の天界、これは超越童子天（ちょうえつどうじてん）という

のがあるわけですが、その超越童子天へと至る修行へと入っていくと。で、この生存の世界の最高の神は何かというと、それは、わたしたちがシヴァ大神といっている生命体、要するに偉大なる神であると。

そして、その生存を超えた非生存の最高の境地が、マハー・ボーディ・ニルヴァーナであるということがいえるわけだね。つまり、これは一連の流れであると。

そのステップを確定させていった方が、より目的がはっきりしていて達成もしやすいという意味において、この三つが内在していても矛盾しないと考えます。

（九二年六月十七日・東京大学）



愛と慈悲



キリスト教では「愛」、仏教では「慈悲」ということがよくいわれると思うんですけれども、それは違いがあるのでしょうか。



キリスト教でいう最高の愛が慈悲だよ、結論からいうならば。つまり、ヨハネとか、あるいはマタイとかが実践した愛ではなくて、キリスト自身がすべての魂のカルマをしょって十字架にかかったと。あの状態が慈悲です。結論からいうならば。

仏教には「四つの偉大なる心」の訓練というのがありまして、その第一番目に来るのが聖慈愛です。これはどういうことかというと、すべての魂に本当に真理の実践をしてほしいとか、すべての魂に本当に高い世界へ至ってほしいとか思う心、これが愛なんです。

二番目が哀れみです。聖哀れみといわれているもので、これは例えば真理と巡り合っているのにそれに気づかない魂に対する哀れみとか、あるいは真理を知っていて、それ

を否定する魂に対する哀れみとか、あるいは、真理の邪魔をする魂に対する哀れみとか、これが聖哀れみといわれるものです。

第三番目が、聖称賛です。これは、要するに、自分より徳の優れている人、智慧の優れている人に対して、心から称賛する心を培うと。

最終的には、第四番目に聖無頓着といわれている心の働きがありまして、これはいっさいの現象に対して、例えば非難されようが、罵倒されようが、殴られようが、それに対して頓着しないと。そういう修行があるわけだね。

この四つをもって偉大なる心の実践、四無量心といってます。



そのうちのどれがキリストの愛なのですか。



一番目と二番目なんだよ。聖慈愛と聖哀れみを合わせて慈悲というんです。慈というのが愛なんです。悲というのが哀れみなんです。

（九一年十一月二十三日・東京本部）

仏陀とキリスト



イエス・キリストやゴータマ・シッダールタといった方々も解脱の最終段階まで行かれたのですか。



少なくとも、ゴータマ・シッダールタが最後まで行かれたことは間違いない。

イエス・キリストというのは、そういう解脱を目的としたのではなく、微細な世界の神の息子になることを目的として法を説いているんです。つまり、『タターガタ・アビダンマ』（最聖麻原彰晃尊師著・オウム出版）で説明している宇宙観の中の、形状界の神になることを目的として説いたのがキリストの教えなんです。特に、この宇宙が存在しているときには神聖世界へ生じ、宇宙が存在していないときは光音天の世界へ生まれ変わるということを目的として説いたのがキリストの教えなんです。

ところが、ゴータマ・シッダールタ、つまり仏陀の教えというのはそうではなくて、その形状界を超えて、空間、識別、それから無、そして認知ね、これを完全に超越し、

最終的には経験まで超越したところに自分自身を置こうと。つまり、自分自身を構成しているものすべてをゼロにすることを目的として説いたのがゴータマ・シッダールタの教えなんです。そういう意味でいったら、ゴータマ・シッダールタの概念の中にキリスト教の概念は含まれるというふうにとらえていいと思います。

（九一年十一月二十四日・京都大学）



神の定義

尊師が説かれる「神」というのを定義していただきたいんです。神とはいったい何でしょうか。

神というのはいろんな神が存在する。ただ、神についての説明をするとするならば、かなり時間がかかるんだよ。というのは、例えば十七形状界にそれぞれ神は存在しているし、この愛欲の世界にも七つの神が存在しているし。要するに、神というのは人間より優れた生命体と。当然、その中には創造主も含まれると考えてください。




では、創造主とは別な神も存在するわけですか。


つまり、形状界の神聖世界の大神聖天を創造主といっているんです。インド・ヨーロッパ語族に伝わる宗教の創造主はすべてその神を指します。キリスト教も、実際、インド・ヨーロッパ語族的な影響があるわけだけれど、ヒンドゥー教でいうところのブラフマン、これは創造主という意味だけれど、このブラフマンと、それからキリスト教でいうヤハウェというのは全く同じ定義で経典には書かれています。

　ですから、創造主はわたしたちが到達できる範囲の一部であるということもまた間違いない、これは。

（九一年十一月二十四日・京都大学）



創造主と仏陀



キリスト教とかイスラム教は一神教で、超越的な神が存在するわけですが、仏教の場合の仏陀（ぶっだ）はすべてを悟った人ということで、神という形で表われていません。オウム真理教においてはその神ということに対してどういう見解をお持ちでしょうか。



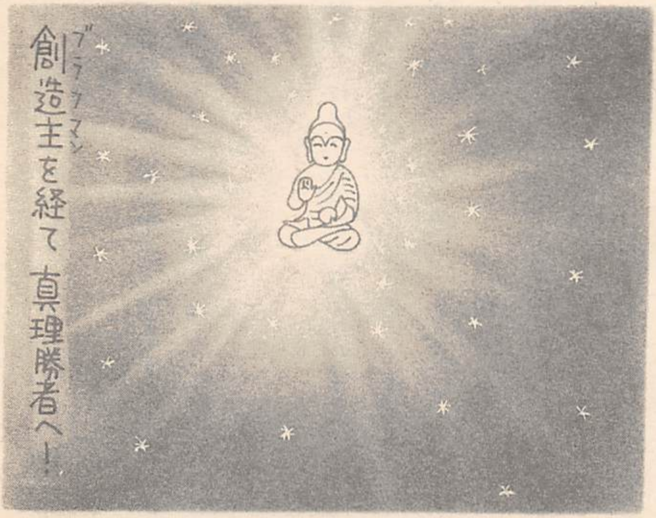
まず、キリスト教、イスラム教における神というものは、千宇宙――千の宇宙のただ一つの創造主ということになってきます。で、これは確かに正しいと。なぜならば、彼らの定義は、まず、性的交わりをしない神である。そして、創造主であるといっています。これは、インド・ヨーロッパ語族に伝わる宗教的な見地からいくと、ブラフマン、つまり創造主は、そういう要素を持っているわけです。

一方、最終的な真理勝者に至るのは、三千大千世界にただ一つの魂といわれています。三千大千世界とは、千の三乗です。つまり、十億宇宙の中でただ一つの魂、ただ一つの神だといわれています。で、現に経典の中に、仏陀がそういう創造主といわれている魂――

大神聖天（だいしんせいてん）とオウムでは訳していますが——を教化する場面が多く出てきます。よろしいでしょうか。

では、釈迦牟尼は何回か生まれ変わって仏陀になったというわけですか。

正確な言い方をしますと、五神通を有してから、四アサンキャ十万カルパ——十万カルパというのは、この宇宙が十万回破壊された期間ですが——後に仏陀となっています。そして、釈迦牟尼は、真理勝者になるまでに創造神を何生も何生も経験しているのです。わかりますか。つまり、創造神を経験した後に、真理勝者となっていくんです。（九一年十一月四日・気象大学）



神性・仏性



民族学的な立場からお伺いしたいんですけれども、洋の東西を問わず、人類が始まって、少し知識がついてきてから、それこそ石を拝み、木を拝みしていたわけですよね。つまり、森羅万象(しんらばんしょう)すべてが神であり、仏であると。これについて、尊師はいかがお考えでしょうか。



いろんな現象に対していろんな考え方があるわけであって、あなたの言っていらっしゃることを、わたしの立場から述べるならば、それはそのとおりであると。

で、そのとおりであるといってもピンと来ないかもしれないから、わかりやすく説明するならば、この粗雑な次元というのは、地(ち)・水(すい)・火(か)・風(ふう)という四大種(しだいしゅ)から構成されていると。この「地」というのは固体成分であり、「水」というのは液体成分であり、それから「火」というのは熱成分であると。「風」というのは気体成分という表現よりも、どちらかというとエネルギー、例えば核融合その他のエネルギーというふうに考えていた

だきたいわけだけれど、この四つの成分を土台とし、例えば、わたしたちのこの肉体も、粗雑な部分はその四つのカテゴリーに分類することができると。
で、例えば木にしろ、例えば石にしろ、そういう意味でいったら、地の産物、あるいは水の産物、あるいは地・水・火の産物であるということができると。そして、わたしたちの肉体の地・水・火・風を司っている真理勝者がいるわけです。それを考えるならば、同じように地・水・火・風の四大種で構成されている物質に神が存在し、仏が存在していると考えてもおかしくはないということになります。
また、こういうこともいえます。真我が通過する途中の段階で、人間から神に至り、神から仏陀に至っていくわけだけれども、ということはどういうことかというと、わたしたちの内側に神の要素が存在し、あるいは仏陀の要素が存在していると。そうすると、わたしたちと同じように四大種で構成されているものの中に神・仏が存在しているとしても間違っていないということになります。

（九一年十一月二十四日・京都大学）

神話



北欧の神話などに興味があって、いろいろと読んだりしています。世界三大宗教以外の宗教、あるいは自然信仰とかいうものに関してはどのような見解をお持ちでしょうか。



一ついえることは、それらはすべて存在の世界、仏教的言葉を使うならば、愛欲の神々の世界の範囲内に属する話なんだね。だから、例えばそれは、この日本の歴史とか、アメリカの歴史とかと同等にわたしの中に扱われているというふうに考えてください。

だから、そういう神話については、ある意味で常識であると。先程言った原始キリスト教や、あるいは仏教というものは、それらの世界を実際に体験する、そしてそれを超えるための教えが内在しているものであるというふうにわたしは理解しています。

もっと別の言い方をすれば、でき上がったビデオを見る、これが神話を読む立場であ

ると。ところが、原始キリスト教や仏教は、そのビデオを制作するというふうに考えてもらったらいいかもしれないね。つまり、自分の目で確かめられる宗教であると。そういう世界を実際に経験できるということです。

（九二年六月四日・北海道大学）



先祖供養



先祖の霊についてお聞きしたいと思います。例えば、亡くなった父とか祖父母なんかは実際、霊となっているのか、それからそういったものを敬うということは、我々にとって必要なのか。尊師のご本を読むと、何か一般の宗教と違うような感じがするんですけれども。



例えば、人間界の魂、動物界の魂と、どんどん死んでいきますよね。これがすべて先祖霊になったとしましょう。すると、この欲界に魂があるのはおかしいですね、それは。いったいどこから来たのか。わかりますね、言ってることは。つまり、どんどんどんどん死んでいるわりには、増えてますよね、人口は（笑）。まず、これは矛盾であると。つまり、その魂は転生しているんですね。転生しているから増えているんです。例えば、今人間界のレベルがあんまり高くないというのは、動物に近い魂がどんどん生まれ変わっているからです。あるいは、救済しなければならないような魂が生まれ

変わっている。それが今この人間界を形成しているわけですけれども、もしこの生まれ変わりがなかったならば、このあと地球はね、空っぽですね。だから、いくらないものを拝んでもしょうがないわけですね。どう思いますか。

例えば、こういうことですね。あなたが大切な車を持っていたと。で、その車が盗まれたと。で、ある人が「祈ればその車は返ってくる」と言ったと。実際はスクラップ工場に行っていて、もう跡形もなく次の車に生まれ変わっていた。これも同じだと思います。ですから、それはあまり意味がないと思いますね。

なぜわたしが「あまり」と言っているかというと、こういうことがいえるわけです。つまり、例えば、ここに傲慢（ごうまん）な人がいたとしましょうね。この傲慢な人が、例えば先祖さんを供養することによって、心が傲慢さから解放されるならやってもいい。しかし、その程度の意味しかありません。よろしいでしょうか。（八八年七月三十一日・名古屋支部）

第2章　真理と科学

分析

真理というものは、シンセシス（合成）とかアナリシス（分析）を経て得られるものだとおっしゃいましたが、だれがいったい分析し、だれがいったい合成いたすんでしょうか。

すごく難しい質問だね、それは。まあ結論からいうならば、真我(しんが)のオーダーということになるわけだけれど——真我というのは最終地点で純粋化されるわけだけれども、その真我のオーダーというふうに考えていいんじゃないかと思うね。

その真我のオーダーっていうのは、人間だれしも普遍に持っているものなんですか。それとも……。

それはみんな持っているんです。昔から、永遠の昔から持っているものなんです。

ということは、先程例に引かれました、人間は生きていると苦というものを味わわなければならないということと同じく、主観的な考えにすぎないと思うんですけれどもどうでしょうか。つまり、いろいろな考え方がありますから、真理とおっしゃいましてもいろいろな到達点が考えられるんではないかと思うんですけれども。

うん、それを突き詰めていけば一つになっちゃうんだよ。例えば、人間は死ぬものであると。これはどうかな。

はい、それは正しいです。

生まれて死ぬものである。これはどうだ。

はい、そのとおりです。

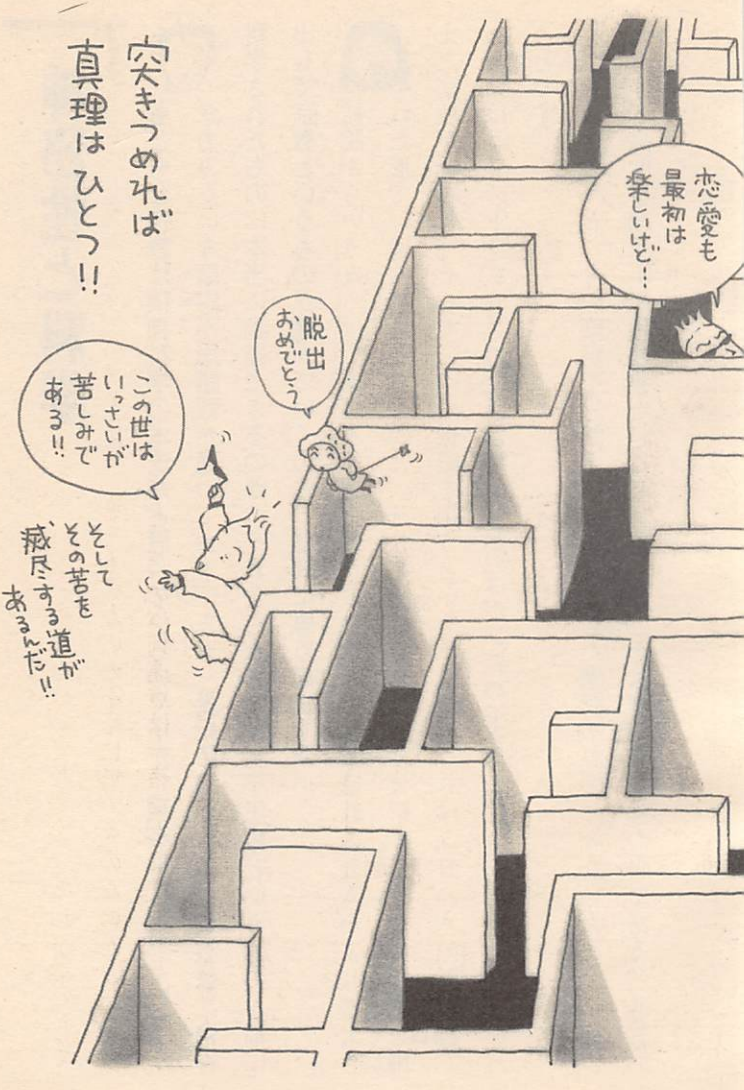
正しいよね。じゃ、生まれて死ぬ中間状態で老いるものである。これはどうかな。

あ、それも正しいです。

つまり、そういうだれが見ても正しいことを突っ込んで考えて、それが果たして苦なのか楽なのか、つまり幸福に導くものなのか不幸に導くものなのかということを行なうこと、これが「分析」なんだよ。だから到達点は一緒なんです。

（九一年十一月二十四日・京都大学）




突きつめれば
真理はひとつ!!
恋愛も最初は楽しいけど…
脱出おめでとう
この世はいっさいが苦しみである!!
そしてその苦を滅尽する道があるんだ!!

神秘性と科学



もともと宗教は精神科学の本流だと思っているのですが、現在は、宗教というと、念力みたいな摩訶（まか）不思議観が通ってます。二十一世紀に向かって、宗教は、精神科学されたものに本当に到達できるのか、それとも永久に摩訶不思議というものを前に出して宗教というものが進んでいくのか、疑問に思うのですが。



結論からいうならば、摩訶不思議宗教、この摩訶不思議宗教の要素がより増大された形で、より神秘的なものと、そしてそれを科学的に分析する二つの要素を備えた宗教が登場し、そして二十一世紀を担うということが、これは『ヨハネの黙示録』、あるいは『ノストラダムスの大予言』、あるいはボン教の予言に説かれています、ということです。

なぜかというと、今の摩訶不思議というのは大した摩訶不思議じゃないんだね。もっともっと高度な摩訶不思議現象を起こし、そして、それが結局は神の賜である、あるい

は心の賜であるということをはっきりと示し、そして、それをかつ科学的に分析する宗教、この宗教が二十世紀の後半、一九〇〇年代に生じ、そして二十一世紀を担うということが、予言書に説かれているということだね。それで答えになっていると思うんだけれど、どうかな。



宗教が摩訶不思議というものからどのように遊離していくのかということがよくわからないのですが。



つまりこういうことだよ。その、もっとより深い摩訶不思議を生じさせて、そのより深い摩訶不思議を科学的に分析しない限り、すべての宗教的な不思議さというのは証明されないでしょ。つまり、より大きな範囲の集合があって、そのより大きな範囲の集合のすべてを証明しているとするならば、その中に内在している部分集合というものは、すべて証明されたことになるよね。ということです。

（九一年十一月二十四日・京都大学）

直観



〝自分〟を理解するための科学的アプローチとして、例えばカナダの大学の先生が、実際に脳味噌を開いて脳味噌のある部分を電気的に刺激して、どのようなイメージを心の中に浮かべたかというのを調べながら、人間が思考するメカニズムを明らかにしようとしてるんですよね。で、その対極にあるものとして、宗教があって、例えば修行によって自分の中をよく見ていこうというような直観的アプローチをとっていると思うんです。オウム真理教では、どのようなアプローチをしているのでしょうか。



まずオウム真理教の実践が直観的であるということは、まあ一部分は正しくて、一部分は正しくないと。

それは今日、わたしの前に、おととといまで〝アンダーグラウンド・エアータイト・サマディ〟といって、これは、ステンレスチェンバーで完全に空気の遮断された中に五日間、断水断食の状態で入っていた弟子が話をしたと思いますが、そのときの計測等は、

最先端の、そうだねｐｐｍオーダーのデータの出る二酸化炭素の測定や、あるいは他のガスの測定、あるいは酸素の実際のパーセンテージも、小数点以下はゼロが三つつくまでの数値をしっかり出して、いつの段階で呼吸が停止し、いつの段階で呼吸が動き出しているというような実験を行なうとか、あるいは、真っ暗闇の全く光の入らないステンレスチェンバーの中で、フォトン、つまり光の粒が、どのチァクラからどの程度出ているという実験を行ない、その人の経験している内容が教義的に見た場合、どのチァクラに属しているということと、その場合の光の出方はどうであるかというのを科学的に検索する実験を行なうとか、あるいは磁気を使って、例えば大脳のどの部分を刺激すればどのような神経伝達の働きが起きるとか起きないとか、あるいは、温度に対してどの程度耐えられるかということを、実際問題として科学的に測定するだとか、そのようなアプローチは行なっています。

ですから、単純にその直観的な実践だけを行なっているわけじゃないということをまず断っておきたいと。

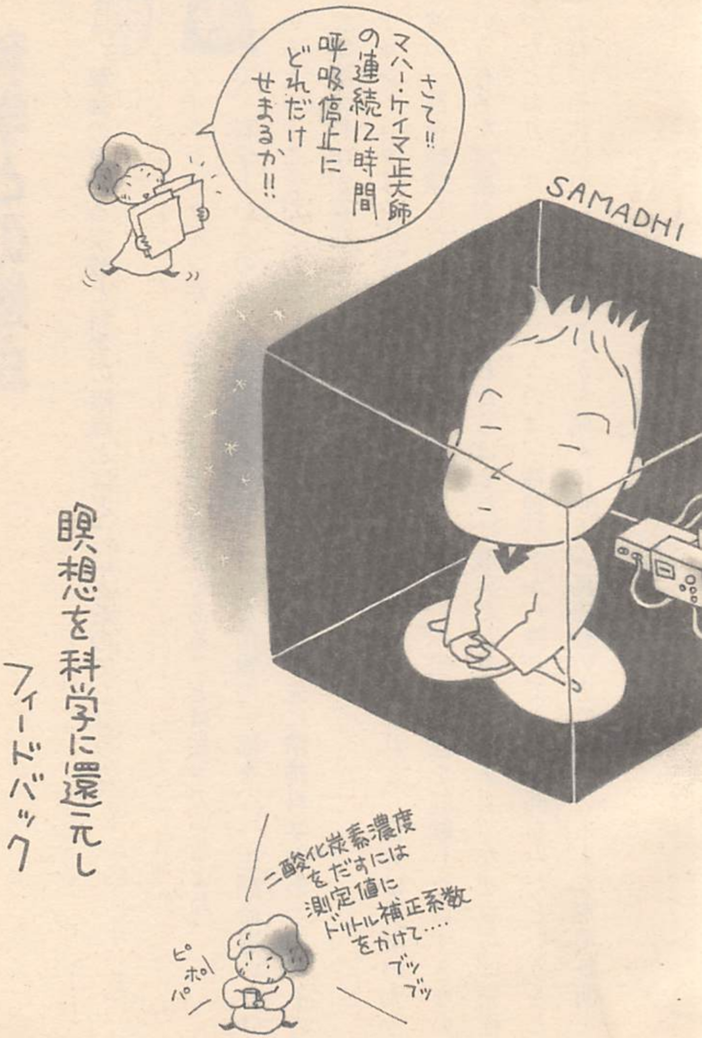
それから第二番目として、なぜそれを行なっているのかというと、ヨーガの経典や、

あるいは仏教の経典には、瞑想のプロセスが科学的に表記されているわけだね、例えば、この段階に入ると呼吸が止まるとか、この段階に入ると身体の緊張が取れるとか、この段階に入るとイメージが消えるとか。だから、そういう段階的なプロセスを、今から何千年も前のヴェーダや、あるいは二千六百年ぐらい前のサキャ神賢の教え等の中に見いだし、それを実際に科学的にフィードバックしているというのがオウム真理教のやり方なんです。

ですから、そのカナダの先生のやっていらっしゃることは、どちらかというと生理学的、あるいは解剖学的なアプローチだと思うが、わたしたちのやっていることは、瞑想を科学に還元し、フィードバックしているというふうにとらえていただいたらわかりやすいんじゃないかと思います。

（九二年六月四日・北海道大学）




さて!!
マハー・ケイマ正大師の連続12時間呼吸停止にどれだけせまるか!!
SAMADHI
瞑想を科学に還元し
フィードバック
二酸化炭素濃度をだすには測定値にドリトル補正系数をかけて‥‥
ピポパ
ブツブツ

科学との接点



尊師の考える宗教と科学の接点とはどこにあるのでしょうか。



アインシュタインが、徹底したユダヤ教徒であることは知っているよね。

で、科学というのは、精神科学から降ろされた情報の一部を、一生懸命追いかけているということだとわたしは思うんだよ。つまり、まず先に精神科学があって、その後に実際の科学が存在してくるというか。

アインシュタインの言葉の中で、有名な言葉があるわけだけれど、自分は科学の大きな波の一部を経験したにすぎないと。そして、真理の本当に一部を経験したにすぎないという有名な言葉があります。わたしはそれは事実だと考えています。なぜならば先程言ったとおり、サイエンスというのは、精神科学から降りてきた一部なんだということだよね。それについては、これから徐々にオウム真理教の方でも、いろんな形で証明を

していきたいと考えています。よろしいでしょうか。


具体的に詳しく説明していただけますか。


例えばね、電話があるとしましょうと、ね。そうすると、電話というのは当然、ここからある場所に対して瞬間的に話をしたいという発想から起きてきているね。

ところが、そういうのは教団内においては日常茶飯事で起きるわけだよね。つまり、テレパシーです。で、それはどういう形で起きてくるかというと、アストラル――つまり、このアストラルというのは音の世界なわけだけれど、その音の世界を使って早く伝播するというか。今の電話を考えた場合も、一応電気を信号に変えて、そして対象に対して送るわけでしょ。それと同じように、例えばアストラルで、あるエネルギーを信号に変えて対象に送るわけだよね。そこに気づいたのが、ベルではないかと、あるいはエジソンではないかということだよね、例を挙げるならば。まあこれは、科学技術の問題に入るわけだけれどね。

もっと典型的な例をいうならば、アインシュタインが相対性理論の理論背景の中で、

こういう表現を使っているよね。一般の生活の時間のスピードと、それからある人がものすごく熱い鉄板の上に座っている場合とでは、時間の流れが違うじゃないかと。つまり、時というものは、絶対的スケールではないんだと。

こういうこともすべて、先程言ったとおり精神科学から出ていることでしょ。だから、まず心に対してしっかりと洞察すると。心に対してしっかりと洞察することによって、その差というものをこの現象界に降ろした場合、それが科学でしょ。

つまり、科学というのは、必ず差異というものを起点としているんです。例えば、ある理論があるとしましょう。その理論と現象との間に、どのような関連があるのかと。まずこれが第一段階で考えられると。

ところが、その理論とそれから現象の間に疑問を生じない人というのは、そこから発展しないよね。つまり、その理論と現象との間の差、つまり相違点を追究していくのが科学じゃないの。



ああ、そうです。というか、その疑問の追究ですよね。


いや、だから単純に疑問の追究ではなくて、差異の追究じゃないのかな。まあ、そこで君の言う曖昧語の「疑問」というものと、それからわたしのいう「差異」というものとの間におそらくズレがあると思うんだね。つまり、疑問というのは何かというと、もともとわかっていることを疑問として生じさせる場合と、それからわからない部分について、あるいはズレについて、しっかりと押さえる場合と二つあるよね。


ああ、おそらく後者の方を僕は疑問というと思うんですけども。わかっていることは疑問じゃないと思いますけど。


いや、わかっていることも疑問だと思うんだよ。ここに、例えば先程言ったオウム真理教の教えがあると。そして、オウム真理教のデモビデオが流れたと。それに対して疑問を生じさせたと。しかし、これはしっかりと考えていけばわかる内容だよね。

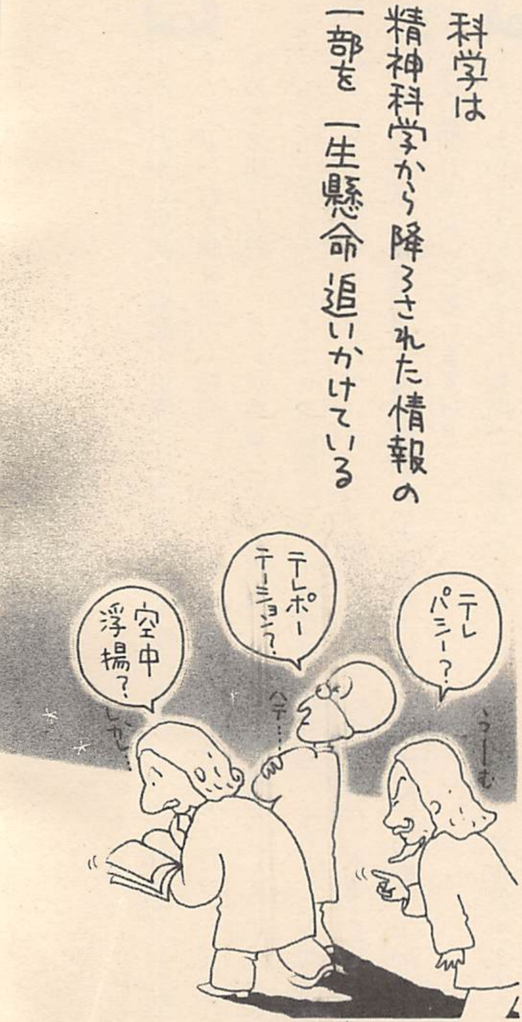

あ、そういった類いの疑問ですね。

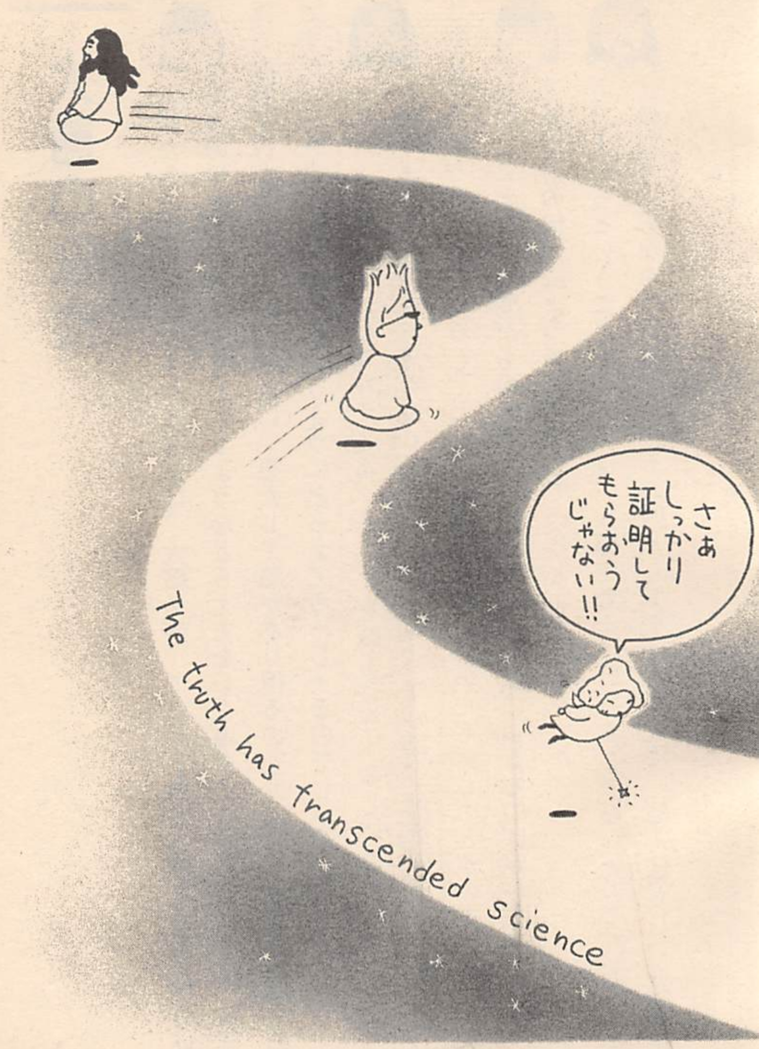

そうです。だから、科学的な疑問というのは、あくまでも差異を背景とした疑問であると。

あ、おっしゃっていること、わかりました。

ということなんだよ。で、それをまず精神科学において追究して、それが降ろされてくると、科学というのは。わたしは「科学技術」を言っているわけじゃなくて、「科学」を言っているわけです。

（九一年十一月一日・信州大学）




さぁ
しっかり
証明して
もらおう
じゃない!!
The truth has transcended science

大脳の役割

人間がものを考えたりするときには、大脳を使っていると思うのですが、例えば死後の世界で意識があるというようなとらえ方をした場合、体がなくなって脳自体で思考が行なわれていないときに、果たして魂があり得るのかどうかと疑問に思うのですが、それについてはどういうふうにとらえてらっしゃるのでしょうか。

いや、もちろんそれは存在するよ。そして意識も存在するし、思考も存在する。というよりも、思考を最も鋭くしている状態というのは、死後のある段階だと、これは仏典にうたわれているし、わたしの瞑想体験においても同じことがいえます。

ということは、人間がものを考えているのは、大脳によるものばかりじゃなくて、それ以外の何かによっても思考しているということですか。

考えているということそのものは、大脳で考えているんじゃないんだというのが仏教の考え方なんだよね。で、その例として挙げるならば、例えばもし、大脳で

単純に考えているんだったならば、精神的コンディションによって、例えば記憶力とか、あるいは思考のレベルっていうものは、狂ってくるはずないじゃないかと。

例えば、例としては植物人間を考えたらわかるとおり、植物人間で、大脳のある部分が全く損傷ないとしても、結局その人の知性というのは、止まってしまっている場合もあるわけでしょ。

だから、大脳でものを考えるということに対する反証というものはいろいろあるわけだけれど、でも逆に今度は、医学的実験において、例えばある大脳の一部分を切り落とした場合、それによって思考力が停止するとか、あるいは記憶力が停止するということがあるわけだから、それから考えるならば、大脳は何らかの受信機の働きをしてる、あるいは、データバンクの働きをしていると考えるのが妥当じゃないかと思います。

（九一年十一月一日・信州大学）

進化論



進化論について、オウム真理教ではどのように考えているのでしょうか。



一部は正しいが、一部は正しくないというふうに考えています。

といいますのは、サルから人間へ至るプロセスの魂がもし存在するとするならば、実証的にわたしたちはそれを見ることができるはずであると。しかし、大きなカテゴリーでの生命体というのは存在していますよね、例えば爬虫類（はちゅうるい）、あるいは両生類、あるいは哺乳類（ほにゅうるい）、あるいは鳥類といった形の大きいカテゴリーでの生命体の進化した形というものは存在していますが、そうではなくて、連続した状態でその現象を見ることはできないと。

で、これはカルマの法則に当てはめてみたらよくわかるわけですが、輪廻転生をする場合、確定した意識状態で輪廻転生すると。例えば動物にしろ、あるいは植物を形成し

ている妖精にしろ、一通り原始仏教の理論によってすべては説明がつくわけですね。ですから、部分的には進化論は正しいが、全体的に見たら進化論は間違っているというのが仏教的見地だと考えていいと思います。

例えば、ある魂が動物の意識状態で転生した場合、それは明らかに動物として転生すると。そして、そのエリアが、あるものは地球にあるし、あるものは地球以外の生命の生存する場所で表現されると。

同じように、例えば人間の意識状態で死に、生まれたら、同じように人間の世界へと転生すると。例えば人間より進化した形の半神と呼ばれる半分神の生命体の意識状態で生まれたら、その世界へ転生するというような形の、これは無始の過去からそういうカテゴリーが存在しているわけですから、例えば、昔はそういう進化していない生命体しか存在していなくて、今は進化した生命体が存在するんだという考え方はおかしいというのが仏教的見解なんです。

（九二年六月十七日・東京大学）

記憶



脳の海馬領域（かいばりょういき）が破壊されると、その人間は、一瞬前のことでも忘れてしまう、覚えていられないという状態に陥るらしいのですが、人間の体が壊れていても、霊魂というか、精神は変わらないはずですから、記憶していられるはずだと思うのですが、それに対してどのようにお考えでしょうか。



今の質問に対する答えとしては、オウム真理教で実験しているわけですけれども、脳波が停止したときに過去の記憶、あるいは過去世の記憶が思い出せるとするならば、それは、反証としては十分だと思うがどうでしょうか。

つまり、海馬領域が働いている、働いていないということを測るのは、結局脳波によって測定はできますよね、当然。



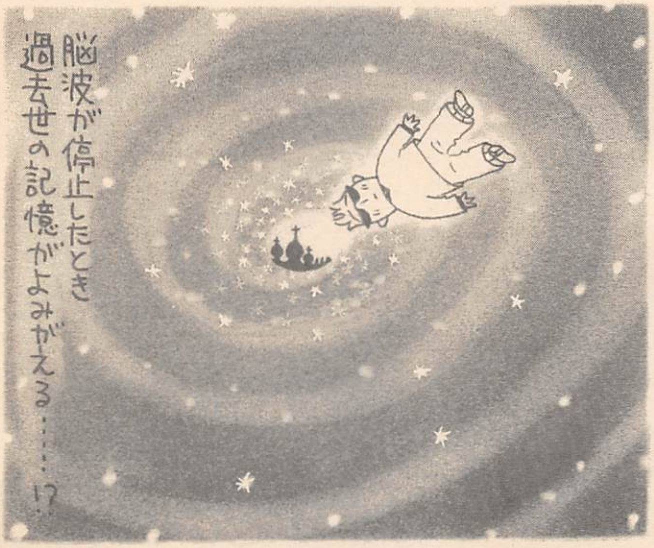
そうですね、はい。

だからそれが静止した状態で、もしわたしたちの記憶が存在しているとするならば、今の医学的アプローチに簡単に反証することができるんじゃないかと考えますがどうでしょうか？　つまり海馬領域だけではなく、他のいろいろな部分もいっさいが停止していると。

ああ、そういうことになります。

それについて、今実験を行なっていますので、そうですね、あと一年、あるいは二年ぐらいのうちには、データが出せるんじゃないかと思います。

（九二年六月六日・神奈川県薬業会館）



第3章　社会問題をどう見るか

社会問題



世界には、環境問題や南北問題など、いろいろな社会問題がありますが、それを最小限に抑える技術はありながら、それが妨げられている理由は国同士の経済力、貨幣のあり方だと思うのですが、それについてはどう思いますか。



それは、わたしの見解とは違う。わたしはこのように考えている。一人一人が心が未熟なるがゆえに、貪りが多いなるがゆえに、煩悩が多いなるがゆえに、つまり他人のことを考えないで、いろんなものをつくり出すと。あるいは、森林を伐採すると。それによって結局自分たちが最終的には被害を被っているというのがわたしの考え方です。

だから、いくら貨幣経済の流通が、あるいはドルとルーブルの格差がなくなるとか、円とルピーの格差がなくなるとかいう形になったとしても、本質は全く変わらないと思います。

（九二年六月七日・新東京本部）


さぁ
貪りを
離れなさい

幸福



わたしは、学生運動のはしっこで闘っている者です。今日は、修行して幸福になるという、そういう個人的なことしかお話しにならなかったと思うんですが、僕らとしては社会を対象にしているわけで、わたしの考え方では、個人の幸福は社会体制とは無関係にいられない、社会体制が悪ければ個人の幸福はあり得ないんじゃないかと考えているわけです。

例えば、日雇い労働者の方が九月の十七日に千葉の松戸で、台風で増水しているにもかかわらず仕事を続けろと言われて、それで七人が溺死してるんですよね。

で、いったい、オウム真理教、麻原尊師の考え方では、彼らの幸福はどうやって得られるのか、この環境を変革することなくして修行だけで果たして幸福が得られるのか、こういうことをお伺いしたいと思います。



結論からいうなら、できます。それはどういうことかというと、まず、一人一人の意識革命がなされない限り、全体の革命はできないとわたしは思うんだけれど、それはどうかな。つまり、社会的にいかに今の権力とぶつかり合ったとしても、それははっきり言ってものすごい力対小さな力のぶつかり合いで、結局もみ消されてしまうと。それだけではなくて、社会は多くの情報を流す権利を与えられていると。よって、例えばあなたの思想が正しいとしても、その思想が日本全体に浸透することはなかなか難しいと。

ところがだよ、ここにもし、その個人個人が意識革命していって、例えばすべての魂のために生きるんだという、「大乗の思想」という思想があるわけだけれど、それに気づいた場合は、その人たちは少なくとも周りの人たちに対して、何らかのいい影響を与えることができると。そして、個人個人がそういう形で変化しない限り、今の物質社会からより高度な社会形態への移行はできないと考えるわけだけれど、それについてはどう思いますか。



そのとおりでしょう。



うん、だよね。例えば、今実際のところ、ロシアが求めているものは宗教なんだよね。で、なぜ宗教なのかというと、マルクス主義が一応崩壊したと。で、理想社会をつくるためには、どうしてもそれを支えるだけの偉大な宗教が必要であるということをいっているわけです。まあ、実際にいくつかの教団が入り込んで布教を始めているわけだけれど、もう少ししたらおそらくオウム真理教もそうなると思いますが、それは先程言ったとおり、結局個人個人、一人一人が高い意識状態、要するに神の意識状態に至らない限り、この世の中を神の世界に変えることはできないんだということなんだよ。

だから、先程の労働者七人の方、これは確かにかわいそうな方だと思います。しかし、そういう問題というのはたくさんあると思うんだよね、日本では。

つまり、一つずつに対して対処していらっしゃる方々っていうのは、確かに犠牲的な精神を持って、それはそれで素晴らしいと思います。しかし、オウム真理教の方向性と

いうのはそうじゃなく、一人ずつがそういうことに対してしっかりと考えられる智性だとか、あるいはそういう現象を起きなくするような智性を得るために修行をしているんだというふうに考えてください。そして、その方がわたしたちは早いと考えているわけだよ。理解してもらえるかな。

（九一年十一月三日・東北大学）



悪業と裁き



盗みをしてはいけないということがあると思うんですけども、ある社会の基準というのがあって、同一の行為でも盗みと判定されるかされないかというのは変わってくると思うんですが。



それは素晴らしい質問だね。なぜ素晴らしい質問といっているかというと、ここは一つのポイントになるわけだけれど、意識が低位に至れば至るほど、その条件というものは甘くなります。しかしその分、裁きも大きいと。

例えば例を挙げるならば、動物の世界でお互いが噛み殺し合うと。この殺生は認められています。しかし、彼らはその分苦しみも大きいと。盗みについても同じことがいえます。

（九一年十一月二十四日・京都大学）



意識が低位に至れば至るほど
盗みの条件は甘くなる
しかし裁きは大きい!!
成功!!
この本のこと あいつ 忘れてるだろうなー もーらいっ!!
あっ おつりが多い もぉーかったぁ♪

犯罪者



最低の人と言っていいのかどうかわからないけれど、例えば幼女をどんどん殺すとか、強姦殺人なんかの凶悪犯なんかは、憎むべき存在でしょうか、哀れむべき存在でしょうか。

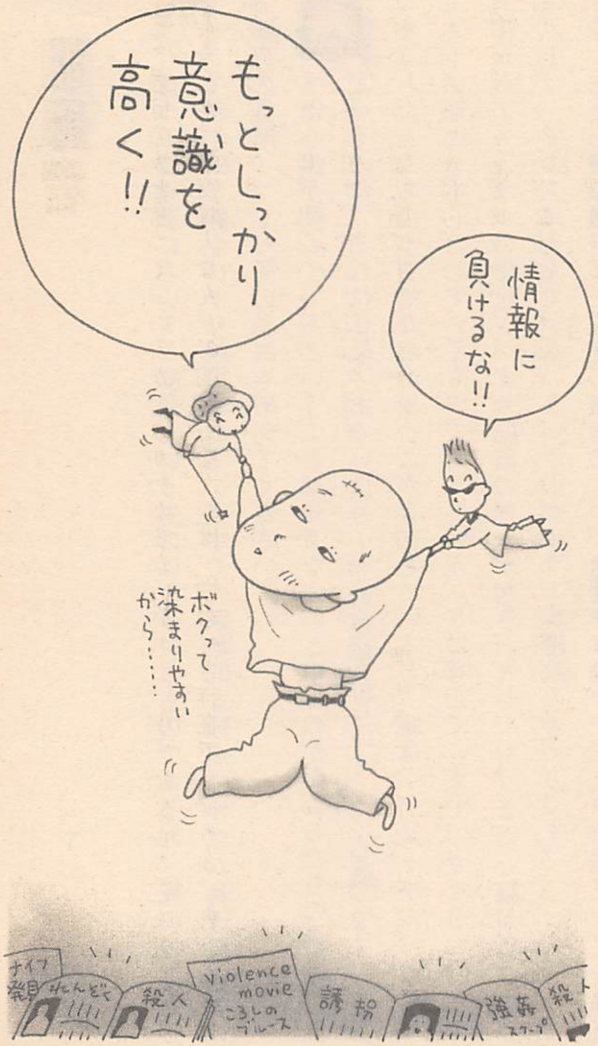


わたしは哀れむべき存在だと思います。

その理由は、彼らの意識状態は、完全に殺人とか、あるいは強姦の衝動にさいなまれている意識状態ですから、例えばその意識状態を憎んだとしても解決できないと。

それよりも、やはりそういう人たちの意識を早くしっかりと高い意識状態へ引き上げてあげる操作が必要であるというのが一つと、それからそのような意識状態を形成しているのは、いろいろな情報であるというのがわたしの見解ですから、その情報の中に埋もれさせられて、要するに染まりやすい意識状態の人に対して、それだけひどいデータを入れる方に問題があるのではないかなというのがわたしの見解です。

したがって、哀れむべき存在だと思います。



（九二年六月十七日・東京大学）

脳死



オウム真理教において、脳死というものはどういうものであるか、死の基準として科学的な観点ばかり論議されている中で、宗教的な観点でオウム真理教における脳死の見解、つまり死の基準を教えてください。



まだ心臓が動いているということは死でない、というのがわたしたちの見解です。というのは、これは仏教、あるいはヨーガの見解からいくと、心臓にコーザル、つまりわたしたちの本質的な魂の根っこが存在していると。脳は、アストラル、つまりイメージ形成を中心としているものであるというふうに考えています。ですから、この肉体からアストラルの停止、つまり脳波の停止が起きたとしても、まだ心臓が動いている以上は、その人は死んでいないというのがオウム真理教の考え方です。



ただ心臓の場合は、医者の技術によって無理やり動かすことが可能です。それがあって、脳死の判定が最近いわれ出してると思うんですが。


脳波が停止した後、それでも心臓を機械で動かすことについてはオウム真理教では肯定します。なぜかというと、心臓が動いている間にできるだけデータを入れる意味において、心臓に対していろんなヴァイブレーションをかけるわけですね。例えば、マントラを流すとか――マントラというのは神々に対する祈りです。あるいは声のヴァイブレーションをかけるとか、いろいろなヴァイブレーションをかけるわけですが、それによってできるだけ振動数を神々の振動数に変えたいものですから、心臓の動いてる時期は長ければ長いほどいいというのがわたしたちの見解なんです。

しかし、心臓を無理やり動かしていても、結局本当に機械的な心臓の動きの場合、体の壊死があちこちで始まりますよね。つまり、あちらこちらの器官がどんどん死んでいくというか、炎症を起こして死んでいくと。それからもう一つ、壊死に伴っての腐敗臭が始まるんですね。この死臭が出、そしていろんな器官の壊死が始まった段階。その段階ではもう意味がないというふうに考えています。

（九二年六月十三日・京都教育文化センター）

臓器移植①


オウム真理教では、臓器移植についてどのようにお考えですか。


それは、信徒が移植されるわけですか。それとも信徒の臓器を移植するわけですか。つまりどういうことかといいますと、教義というのは、あくまでも信徒に対してのものですよね。ですから、信徒が受け手なのか、あるいは与え手なのかによって違ってくるということですよね。


両方の場合をお願いします。


信徒がだれかに肝臓移植する場合、その信徒が与えたいと考えるならばそれは布施波羅蜜(ふせはらみつ)の実践ですから、つまり肉体を与えることそのものは仏教の布施の最高の教えとされていますから、問題ないと思います。

例えば、典型的な例としては、テーラヴァーダの国であるスリランカでは、多くの人がアイバンクに目の布施をしています。それと同じ考え方で、肉体を布施すること、これは大変価値のあることですから、それはそれで問題ないと思いますね。

それを受ける場合の問題点は、やはり修行が特に進んでいますと、エネルギーの問題等がありますから、その人の判断に委ねられることになるんじゃないでしょうか。

（九二年六月十三日・京都教育文化センター）



臓器移植②



最近話題になっている臓器移植について、オウム真理教では、臓器を移植された人にはどのようなことが起こるとお考えでしょうか。



まず、心臓以外の臓器の移植と心臓の移植とでは、意味合いが違うというふうに考えます。

その前に言っておかなければならないことは、心臓にはコーザル、つまり、識別をする部分が宿っているというふうに一般的には考えるわけです。そして、脳死の状態で心臓が動いていて、その心臓を入れた場合にどうなるかというと、その識別の要素が変わると。つまり今までにない性癖、つまり性質的な癖というものが当然現われてきます。

これは、心臓移植した後にその人の性質が変わったという例はいくつも報告されていますよね、実際に。ですから、コーザルの部分の変化というのはやむを得ないと。しかし、その人が形成していた、アストラル——まあこれは大脳と関係があるわけですが——

その部分と、あるいはこの現象界の肉体の部分は変わらないわけですから、外から見てもわからないと。しかし、その人の本質は変わり得ているというのが、心臓移植の場合の特徴であるというふうに考えます。

他の臓器については、それぞれのカルマの範囲内で若干の変化は起きるでしょうが、そう大した変化は起きないというふうに考えています。

ただ、事実こういう例があります。輸血をしたことによって、その輸血を受けた人の性格に、血を与えた提供者の性格が混じり合った例というのは、何例もわたしは聞いておりますので、受けた臓器の部分のカルマもある程度受ける、その典型的というか、その最も激しい例が心臓移植であると。心臓移植の場合は、コーザルのデータは入れ換わると考えていいんじゃないでしょうか。

（九二年六月二十一日・大阪阿倍野区民ホール）

日本



日本はそれなりの経済的な繁栄を今日もたらしてると思うんです。そのことに特別な意味があるのでしょうか。それとも、そんなものは全く意味がないことなのでしょうか。



この今の日本の文明といわれるものは、世界のどこを歩いても、これだけの俗にいう綺麗な機械文明を形成しているところはありません。特に首都圏、東京、あるいはこの名古屋もそうでしょう。

しかし問題は、その背景にあるものについての良さは良さとして、それから欠点は欠点としての検討をする必要はあると。で、良さとは何かというと、これだけのものを短期間に形成した、要するに仏教的な言葉を使うならば不放逸（ふほういつ）、つまり努力し続ける姿勢、それからもう一つは知能の高さと、この二つは大変称賛しなければならないと思う。で、欠点とは何かというと、逆にそれにとらわれすぎているがために、心の本質を放棄して

しまっている部分があるということ、これは当然反省材料として考えなきゃならないと思う。

では、この不放逸、つまり、努力し続ける姿勢、それからこの知能というものは、真理という点から考えた場合どのような利益があるのかというと、これは、要するに解脱、あるいは悟りに必要な第一の条件は何かといったら、不放逸、つまり、努力し続けることですから、そういう意味においては日本人というのは大変、解脱・悟りをしやすい民族であるということはいえると思いますね。

それから、もう一つは、これは言葉の定義ですけれど、この日本という国は、「日の本」と書きます。で、日というの皆さんもご存じのとおり太陽と。で、太陽の本、という意味であると。ところで、サキャ神賢（釈迦牟尼）のサキャという言葉には、太陽の末裔という意味があります。したがって、日本人そのものがお釈迦様のお生まれになったサキャ族の系譜の可能性があるんではないかなと。まあ、民族的にも似てますしね、大変。というのが今のわたしの見解です。

ですから、解脱・悟りといったような、高い精神性を有するための民族、選ばれた民

族である可能性は、大変高いと思います。よろしいでしょうか。

（九二年六月十四日・名古屋大学）




不放逸ー！
知能が高いー！
日本人えらいっ!!
バシバシ

第4章　伝授！人生開拓法

自分

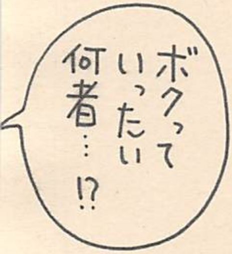


僕はいったい何者なのでしょうか。そして、それを僕が知る必要はあるのでしょうか。

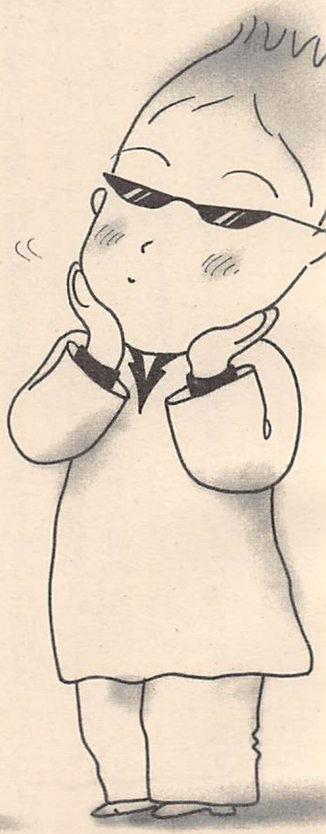


それを知ったら、ものすごく大きな利益だと思います。なぜかというと、あなたの今から死ぬまでの長い人生において、自分が何者であるかを理解したら、自分の努力をしなければならないことというものがはっきりわかってくるから、それは、しかもあなたの魂の本質とかかわることで、その本質に向かっての努力となるだろうから、それは大変大きな利益だと思います。

（九二年六月十四日・名古屋大学）



もし
自分が何者であるかを
理解したら
何を為すべきかがわかり
大きな利益ですね





生



人間はなぜこの世に生まれて生きているのでしょうか。生まれながらにして罪をもって――今まで戦争などによる破壊といったいろんな罪を行なってきたんですけれど、なぜそういう人間が生まれ、生きているんでしょうか。



人間が生まれてくる原因には、大きく分けて三つあります。

その第一は、煩悩によって生まれてくると。これは、輪廻転生のサイクルにおいて人間界へ転生する場合、一般的には父母の性的交わりの対象となる異性、例えば男性の場合は母親、女性の場合は父親に性的魅力を感じて、そこでその性的相手として自己を認識し、子宮へ飛び込むといわれています。これが一般の場合です。

それから、そうではなく、煩悩を滅尽しようということで人間の世界へ転生する魂がいます。これは小乗の修行者として転生する場合です。

それからもう一つは、大いなる救済を考えて生まれ変わってくる場合があります。こ

れは、前生において阿羅漢（あらはん）の位に到達した魂が輪廻転生をするパターンです。この三つであると考えてください。

（九二年六月十三日・京都教育文化センター）



人生



人間は何のために生きているのでしょうか。



人間の生きている目的は、二つのカテゴリーに分けることができます。その第一のカテゴリー、第一の分類は、瞬間瞬間の煩悩を満たすために流されていると。そして第二のタイプの魂は、すべての生き物たちを利する、つまりすべての生き物たちに利益を与えるために生きようと努めていると。そして中間的には、今この人間の生の苦しみというものを理解し、その苦しみから超越しようと思って生きている魂も存在します。ではなぜ、その中間の層をわたしが分類に入れなかったのかというと、結果的にこの中間の層の分類、つまり自分の苦しみを取り払いたいと考えて生きている魂は、最終的には第二のカテゴリーであり、すべての魂に利益を与えるために生きることになるからです。

少し専門的な話をするならば、自己の苦しみを超越する方法、これは仏教とかヨーガとかにいろいろあるわけですが、その実践を行ない到達した魂を阿羅漢、つまり供養に値する魂といいます。この、供養に値する魂が、いったんニルヴァーナという世界へ入ります。このニルヴァーナとは、すべての感覚器官が、そして心が静止した状態を指します。

しかし、この魂は自己の利益のために心を静止させていますから、より強い自己の利益の干渉があったとき、心は動き出します。より大きな自己の利益とは、例えば、お釈迦様のような世尊、バガヴァンといわれる魂からの光の導きや、あるいは、ボーディサットヴァと呼ばれる、もう阿羅漢に到達して輪廻転生を繰り返している魂の光の導きによって、その世界からいざなわれる形で生まれ変わり、そして衆生に対して真の幸福とは、煩悩を完全に超越することであるという法則を説くわけです。

ですから結果的には、二つのタイプ、いまだ真理に気づかず、煩悩を貪り続けている魂と、それからもう一つは、それを完全に超越している、そしてすべての魂の利益のために生きている魂と、この二つに分類することができます。

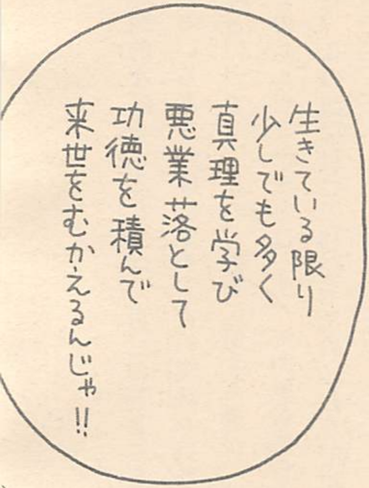
（九二年六月九日・仙台読売ホール）

長生き

長生きはすべきだとお考えですか。

真理の実践ができるんだったら、長生きはすべきでしょう。しかし、もし真理の実践ができず、悪業を積み続けるのだったら、あまり長く生きても意味がないんじゃないかというのが、わたしの今の気持ちです。

（九二年六月五日・金沢支部）




徳行
善行
法行
寂静行
四無量心ね

死



人はいずれ必ず死んでしまいます。死ぬときには何も意識がないと思いますが、それじゃあ、何のために死ぬまで生きるのでしょうか。

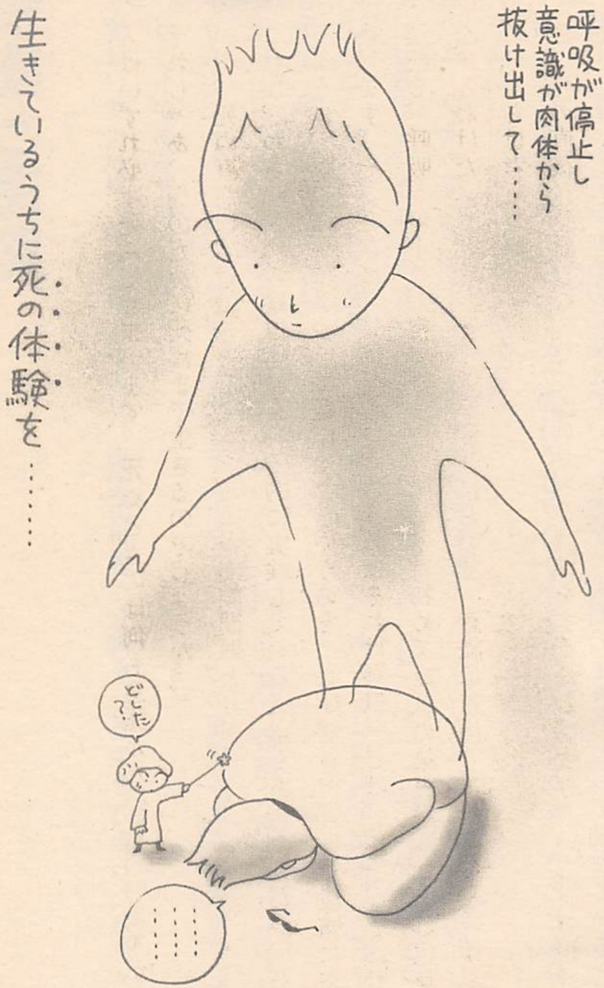


いや、死ぬ直前に、意識のある人もいるよ、実際問題として。

これは、わざわざ死の疑似体験を科学的に実験している大学もあるそうだが、それと同じように、瞑想体験によって「疑似死」というのを、必ず修行者はある段階に来たら経験します。そのときに、気絶をしているうちはそれは疑似死とはいわず、そこで意識が連続し、呼吸が停止して肉体から抜け出して、初めて成就の第一段階である化身の経験をするわけだけれども、そういう意味において、意識は死後も存在するというふうにわたしたちは考えています。

だから、死の直後に意識のなくならないような訓練をすることが生きている間の修行であるというふうに言い換えることができると思います。

（九二年六月四日・北海道大学）


呼吸が停止し
意識が肉体から
抜け出して……
生きているうちに死の体験を……
どした？
……

宗教と現実



僕は、来世がどうこう考えるより、現実の世界に立脚をした生き方をした方がメリットがあると思うんですが。



うん、だから、現実の世界を分析することによって、この現実の世界の価値を正確にとらえる、そしてそれを超えるということがまず第一段階にあるわけです。

わかるかな、言っていることは。

例えばだよ、あなたの言う現実を十分に満喫したいと、あるいは現実を充実した形で生きたいと考える。これそのものは悪いことではないよ。ただ、そこにおいて問題になってくるのは、来世の意義を考える前に現実の意義を考えていないではないかと、分析してないではないかと。これはどうかな。



例えば日本の社会に対してどう働いてどういうふうにしていくかということを分析し、もっと完全なものに変えていった方が、人間の生き方として優れていると

思うんですが。



いや、今の君の命題は、個人の生とか老いとか、病とか死とかいうものについて考えること、それと同等であるか、あるいはそれ以下だと思うんだよ。で、なぜ同等であるかそれ以下だといえるかというと、この第一の命題の生・老・病・死というのは、だれもが通過する問題であると。しかし、社会の諸現象というのは、ある人は関係があるし、ある人は関係がないよね。例えば、例を挙げるならば、消費税の問題があったとして、消費税は大金持ちにとっては大した影響がないと。逆に大金持ちにとって優位に展開したわけだけれども、大した影響はないと。しかし、貧しい人にとっては影響があると。

しかし、これらの貧しい人も大金持ちも最終的には死ぬわけであって、その死について考えた方がより有意義じゃないかと思うわけだけど、どうだそれは。



いや、僕はその死以降についてはあえて考えないというか、そのあるかないかわかんないような世界のための生き方をするよりも、今のある世界に立脚して生きていった方がいいと思ってるんで、そこは相容れないかなあとか思うんですけど。



ということは、君は死後の世界はあるかないかというのは、もう今生では考えないということだね。



いや、考えてもわからないから。



いや、考えてもわからないじゃなくて、その教えを聞いて実践することによって、経験ができると言ってるんだ。



それは一回人生使ってしまうことになりますんで、あえてしようとは思わないんです。



それは勘違いだよ。なぜ勘違いといえるかというと、例えば、サーリプッタは二週間で悟ったし、マハーモッガッラーナは一週間で悟っています。あるいは、ケーマー比丘尼（びくに）は九カ月で悟っています。だから一生は使ってません。

それをだよ、この世の中を変えることは、今まで多くの人が——例えば、例を挙げるならば、マルクスが社会主義、あるいは共産主義というのをぶち上げて試みたわけだけれど、失敗したわけでしょ。結局は、みんなが、そういう意味で平等というか、本当の

意味で幸福になるような社会というのは不可能なんだよね、この人間の世界では。



ええ、だからまあ、人間はどうしても、こう、ごたごたした存在だとは思いますけど。



そうだよね。で、当然、オウム真理教にも現実の生活を分析する瞑想は存在しているわけです。しょっちゅうそういう瞑想はします。そして実践します。

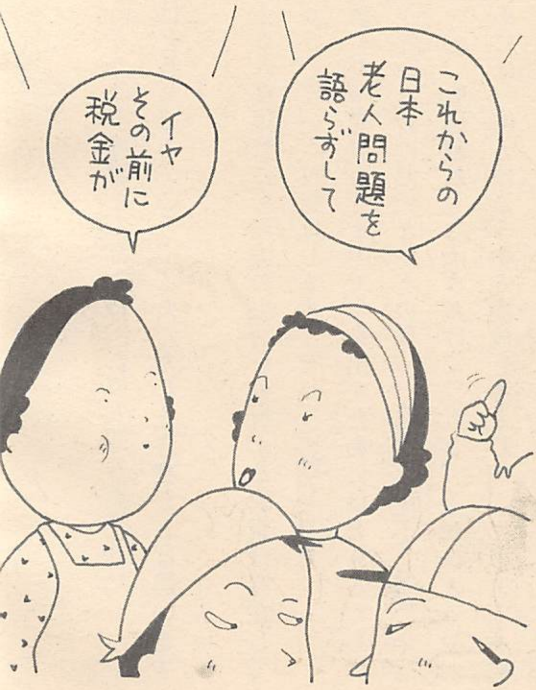
例を挙げるならばだよ、先程言った一冊五百五十円で本を出すためにはどうしたらいいかという検討までわたしはやっているわけだ。というのは、一般的に出すならば、やっぱり今一冊千円ぐらいで出さないと、原価割れしちゃうわけだけれど、それはどうやって出したらいいんだと。そのためには、例えばこういう機械を導入して、このような形でもっていけば五百五十円で出せるなと。それができるというのは先程も言ったとおり、それより高度な分析ができるからなんだよね。

今二年間あまり、社会的にオウム真理教というのはかなり強く叩かれたわけだけれど、平然として組織は維持できたというのは、もともとそれだけのものが生じる、つまりオウムはバッシングされるんだということを予言して、その準備をしていたからなんだね。

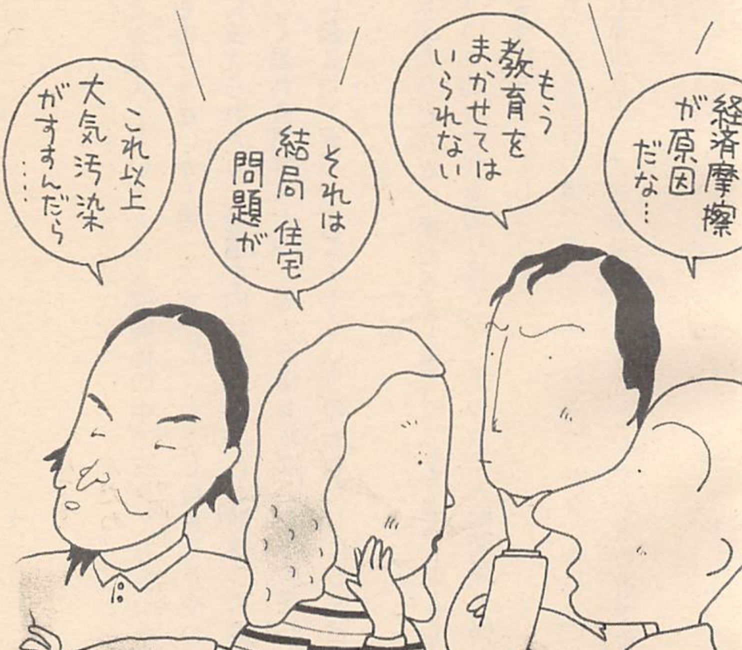
経済的にも、いっさいどこからも借り入れをしないで、自力でやっていくということを、叩かれる三年も前から準備をしていたから、平然と生きてこられたわけです。

しかし、それはあくまでもわたしたちにいわせると低次元の智慧なんだね。ということです。

（九一年十一月二十四日・京都大学）




死を見つめ
来世を見つめ
たんたんと
もくもくと…


経済摩擦が原因だな…
もう教育をまかせてはいられない
それは結局住宅問題が
これ以上大気汚染がすすんだら……

人間関係



人間というものは、家族とか友人とかいろんな人間関係の中で支えてもらったり支えたりして生きていくものじゃないかと思ってきたし、わたし自身そうやって生きてきました。そうやって人に支えられたり、愛情を向けられることを期待して生きていると、相手を失うことをすごく恐れる気持ちとか、思いが伝わらないときの悲しみとか、腹立たしさとかが心の中に起こってきて、すごくそういうのをわたしはしんどいと感じるんです。

そういうものを切り離してしまえたらどんなに楽だろうと思うこともあるんですが、オウム真理教の修行によってそういうとらわれを切り捨てて、その上で人間関係を保ちながら生きていくことはできるようになるんでしょうか。



完全に切り捨てる道、これは出家修行の道です。それから逆に、あなたのおっしゃるとおり、支えて支えられる生き方、これを肯定する道、これが在家の道です。

出家の道については、もう切り捨てればいいわけですから、それほど難しくはありません。ですから、在家の道について少し話しましょう。

在家の道の基本となるものは、まずとらわれるなと。そして、第二番目には、徳の高い者を称賛し、徳の高い者の教えに従いなさい、この二つを原則として説きます。

ではなぜ、この二つが原則となるのかというと、わたしたちは、人間界のしがらみによって、一人一人のしがらみによって、いい情報も悪い情報も入れることになるわけです。そして、例えば悪い情報を入れる友人がいて、自分の心が寂しいがゆえに、その友人にしがみついていたとしたならば、その魂は、その悪い情報なるがゆえに落下のプロセスを歩くことになります。

しかし、もし徳の高い、そして智慧のある在家の魂とつきあうならば、その在家の魂から多くの教えを受け、利益を受け、そして成長することができます。したがって、徳のある魂に近づきなさい、徳のない魂に近づくべきではないという教えは、そこから来ているわけです。

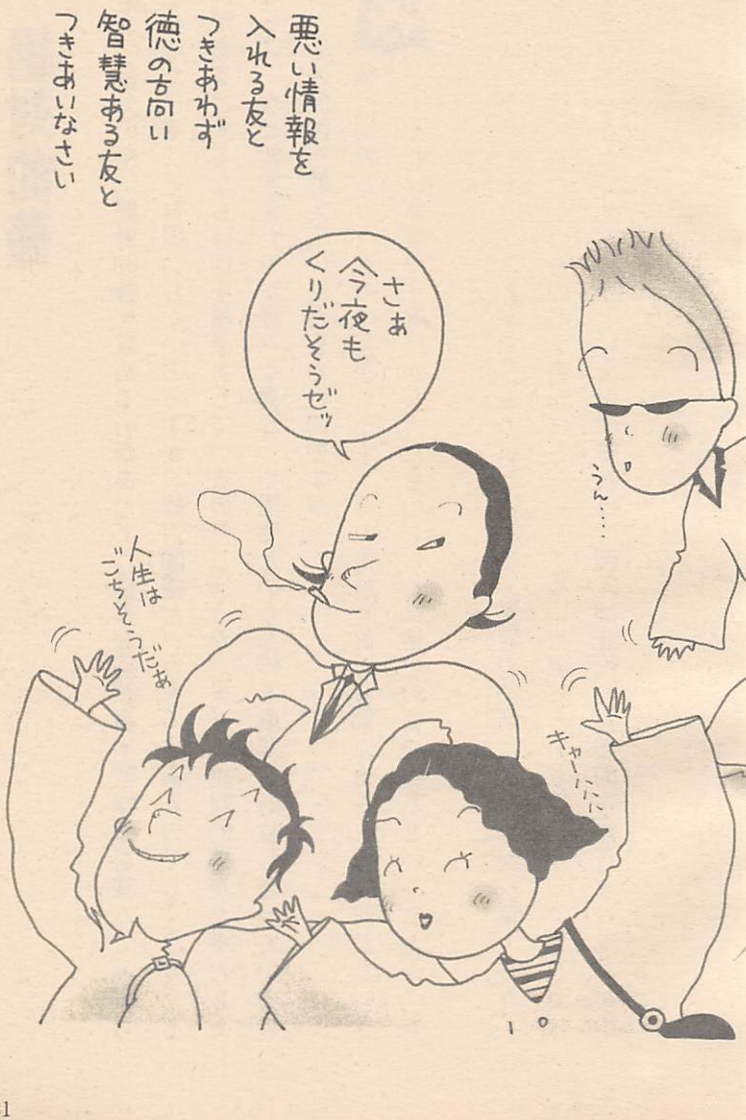
そして、とらわれるなというのは、結局、わたしたちがこの人生を生きているのは、

修行としてとらえるならばそれは大変価値のあることであると。例えば自分が今までいろいろな善行をなしたとして、その善行の果報ではなく、逆に悪口を言われたりいじめられたりすることもあると。しかしそのときに、もしそういうものにとらわれなければ、悪業が減少し、つまり減り、そして自分のなした善業だけが増大していくと。したがって、在家においてとらわれず、そして徳の高い魂に対してのみ心を向け、そういう魂との人間関係をつくり上げていくならば、それは在家もまた素晴らしい道だと思います。

（九二年六月二十一日・大阪阿倍野区民ホール）






悪い情報を
入れる友と
つきあわず
徳の高い
智慧ある友と
つきあいなさい
さぁ 今夜も くりだそうゼッ
うん……
人生は ごちそうだぁ
キャーにに

絶対的善



自分の中に絶対的善を求める心があって、様々な宗教書や哲学書を読んでみました。そこでお伺いしたいのですが、絶対的善というものはあるのでしょうか。それがあるとするならば何を基準としているのでしょうか。また、絶対的善があるとしたならば、なぜ哲学者たちが様々な異なった思想というものを展開し対立し合っているのか、その原因を教えていただきたいのですが。



絶対的善というものは存在します。その絶対的善の背景にあるものは何かというと、それは真理の法則にかなったもの、これは絶対的善であるということができます。

では、なぜそういうことができるのかというと、真理の法則にかなった言葉・行為・心の働きは、わたしたちの心を豊かにし、そして高い世界へといざなうからです。ではなぜいざなうといえるのかというと、それは、例えば北伝の典型的な修行プロセスの中

に六つの極限というのがあります。この六つの極限の中に、サマディ・智慧という最後の二つのステップがあるわけですが、そのサマディにおいて自分自身のなしている内側の要素というものをしっかりと認識する修行法があるわけです。つまり何を言いたいのかというと、自分の実践している教えが絶対的善であるかどうかを確認する、主観的に確認するただ一つの道、それがサマディであると。そして、そのサマディによって自分自身のなしてきた行為・言葉・心の働きをチェックしながら修行を進めること、これを、北伝では在家の修行の中に入れたわけです。

では、南伝ではどうしたのかというと、より早くサマディに到達した偉大なる仏弟子たちが、その法則の中で、この法則さえ在家のものが実践すれば、必ず幸福になれると、そして、それは絶対的な善の道を歩くことになるという教えを展開しました。したがってこの場合は、その仏弟子たちは神と等しいもの、つまり自己の絶対的価値の基本となるものとして大変な尊崇を受けたわけです。

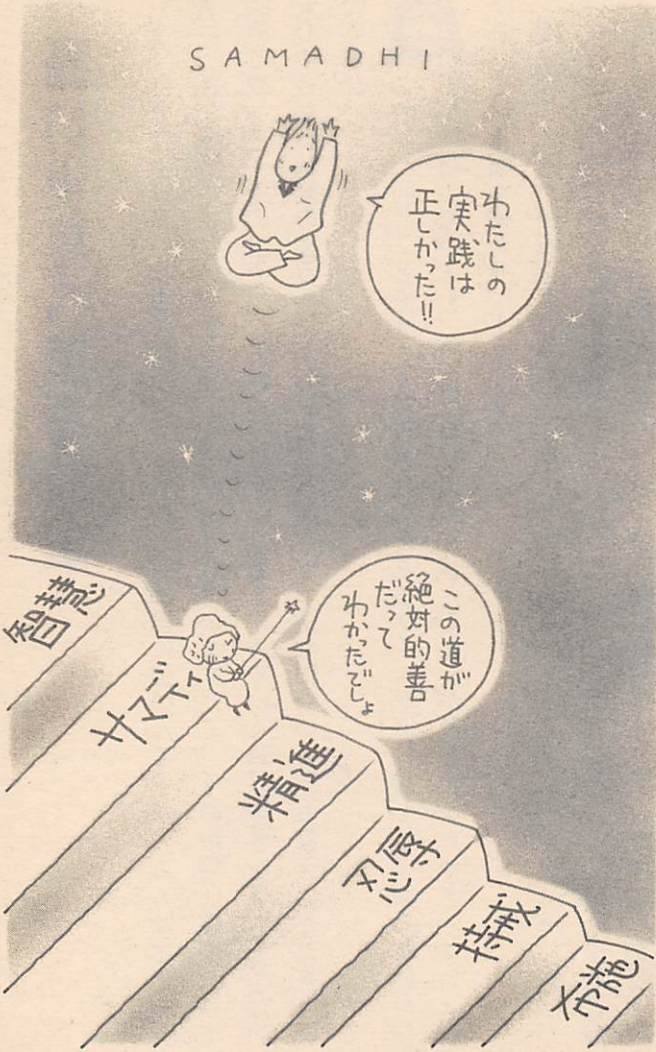
疑い深い民族である日本人にとっては、この北伝的生き方、つまり、日々修行しながら自分自身のなしていることが正しいのかどうかを実際にサマディによって経験し、そ

してフィードバックするという生き方の方が、わかりやすいかもしれません。

ところで、これらの絶対的善に対して、なぜいろいろな哲学的考え方がはびこるのかということについて次は考えなければなりません。もともと哲学というのは、「愛智」つまり智慧を愛するという言葉から来ています。この、フィロソフィーという言葉は、個々の心の成熟の段階によって全く違った結果を招くこととなるわけです。例えばわかりやすい例を挙げましょう。あるスピード狂の魂がここにいたとして、その魂はゆったりしたセダンの車と、それからスポーツカーとどちらを選ぶかというと、乗り心地が悪くとも、スピードの出るスポーツカーを車としては最高であると考えるでしょう。ところが、車というものはゆったりとくつろぐために乗るものであると考える魂は、セダンのできるだけ大きい車に乗るはずです。つまり、単純に車という一つの課題についても、このようによしとする判定基準は、変わってくるわけです。

それ以上に多くのわき道を有する、多くの迷路のような〝意識〟に対して、最終地点に到達していない魂が自己の論を張るとするならば、それは多くの答えが出て当然だと思います。どうでしょうか。

（九二年六月二十一日・大阪阿倍野区民ホール）


SAMADHI
わたしの実践は正しかった!!
この道が絶対的善だってわかったでしょ
智慧
サマーディ
精進
忍辱
持戒
布施

高い世界へ至る欲求



自分のより高い状態が欲しいって気持ちが本当に強いんですが、これはすごく大きな煩悩じゃないかなっていう気が、今しています。で、その煩悩は煩悩として認めてやって、その上で、なおかつより高い状態を求めていく自分自身の今のあり方は、安心できない状態のような気がしてしまうんです。それについて、お答えいただきたいのですが。



これは、同じことをサキャ神賢（しんけん）の高弟であるアーナンダに対して、同じ時代の祭司が質問しています。同じ比喩（ひゆ）によって答えることが最もわかりやすいでしょうから、その比喩を使わせてもらいます。

例えば、あなたが行きたいところがアメリカであるとしましょう。「アメリカに行きたい、行きたい」とあなたは強く欲求している。そしてあなたは実際にアメリカに飛行機を使って行ってしまったとしましょう。この飛行機を使って行ってしまったときに、そ

の欲求が生じ続けるだろうかと。つまり欲求には、飽くなき欲求と、それから目的へ至らせるための欲求の二つがあります。

何を言いたいのかというと、あなたが高い世界へ至ろうとする欲求は、あなたを高い世界へ導くと。しかし、その高い世界に終わりがある以上、つまり最終地点がある以上、その高い地点、高い世界へ至ったとき、最終地点へ至ったとき、あなたの欲求はそこで完全に止滅してしまう。

ですから、その強い欲求は持つべきであり、そしてそれこそが、逆に高い世界へ至るための、ただ一つのエネルギーであるというふうに考えるべきです。

（九二年六月七日・新東京本部）



価値観



正しい価値観とか正しくない価値観とか、そういうものがそもそもあるのかということをお聞きしたいと思います。



価値観っていうのは、二つのカテゴリーに分けることができると。その第一の価値観は絶対的な価値観と。第二の価値観は相対的な価値観と。で、この絶対的な価値観と相対的な価値観の違いは、煩悩を超越した状態での価値観を採るのか、あるいは煩悩によって目的を追求することによって生じる価値観を採るのかというところにある。

例えば、第一番目の例は、わたしたちは必ず死にますと。よって、長生きしたいと。あるいは、わたしたちは必ず死ぬから、苦しみの少ない世界へ、幸福の多い世界へと生まれ変わりたいと。あるいは、この人生で生きていて幸福になりたいと。このようなものは、すべて絶対的価値観に属すると。

では、相対的価値観とは何かというと、例えば学校生活を実際送ると。そして、高学

歴、そして一流会社といったエリートコースを歩むと。これに価値を見いだしている人、あるいはそうではなくて、例えば人生というものはもっとゆったりと楽しみながら生きていくことの方がいいんだと考える生き方と。このような価値観というのは、相対的な価値観に属するということがいえると思うんだね。

この相対的価値観というのは、必ずその人が何らかの精神的トライをするならば変化すると。しかし、絶対的価値観というのは、その絶対的価値観の終局である悟り、あるいは解脱をしない限り、その絶対的な価値観における満足を得ることができないと。こういうことがいえると思う。

そして、この相対的価値観は、瞬間瞬間、一時的には、喜びを満たしてくれると。例えば、この人間の世界はわずか八十年であると。この八十年間の間において相対的価値観は有効であると。しかし、絶対的価値観は、それを超越した長い長い魂の流れにおいて有効であると。ということは、相対的価値観を捨断し、絶対的価値観を採った方がわたしたちにとってはより多くの利益があるといえると。よろしいでしょうか。

（九一年十一月一日・信州大学）

殺生



生き物を殺すのはかわいそうだから肉食を断つという考え方がありますね。ということは、それを突き詰めていくと、人間というのは死んでしまった方がいいんじゃないでしょうか。



死んだとしても、その要素がある以上、また生まれ変わります。つまり死んでも意味がないんです。先程わたしは、カルマの原因と返りについて、それがよりはっきりと、早くわかればわかるほど、それについての対応をするようになるという話をしましたよね。それが真理の実践ですよと。例えば、ヨーグルトを食べるとか、あるいは酵母菌を使ったパンの食事をすることによって、即ケガをし出す魂もいるんですね。それをやめた段階で、スパッとなくなると。ということはヨーグルトや、あるいはパンの酵母菌なども、それを殺すならば殺生になるという見解が成立すると。

ところが、それを知らない、つまりそれが蓄積されても平気な魂が一般的なんです。

その場合はそれをやっても構わない。

やってはいけないという見地に立っている人の場合は、それを突き詰めることは現実問題不可能なんじゃないんですか。

いや、それを突き詰めます。ちゃんと突き詰めても生きていけるんですよ。ですから、決して死なないようにしてください。死んだとしても、生まれ変わって同じ苦しみを味わいますから。

（九二年六月十三日・京都教育文化センター）



思い出



〝思い出〟というものを生かして、その美しい過去の思い出に執着することがいいことかというテーマの小説がたくさんあるのですが、思い出に執着することは、本当にいいことなんでしょうか。

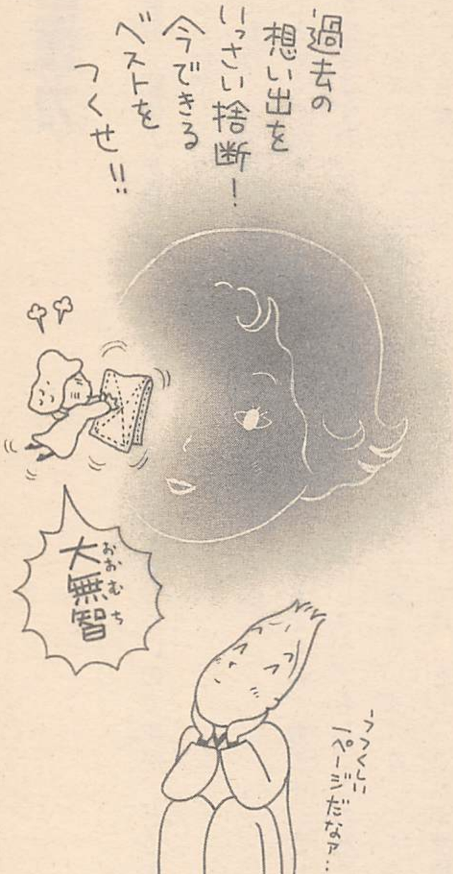


いや、それは不利益であるということがいえると思います。ではなぜ、思い出に執着することは、不利益なんでしょうか。

例えば、わたしたちは生きています。そして瞬間瞬間にわたしたちのなしていること、例えば言葉や行動やあるいは心の働きというものは、コーザルのデータに蓄積されます。そして、思い出というのは過去の産物ですから、その過去の産物に対して心がとらわれているとき、その状態のとき心は完全に無智の状態を形成し、その無智の記憶修習を繰り返すことになります。そして心が無智の記憶修習をしているとき、当然言葉も同じように無智な言葉を吐き、行動も同じように愚鈍になると。

したがって、わたしたちは生きているわけですから、この生きていることを最大限に利用し次の利益のあるステップを踏みたいと、そう考えるならば過去の思い出をいっさい捨断し、そして、今できるベストの生き方をする、これこそが最高の生き方だと思います。

（九二年六月二十一日・大阪阿倍野区民ホール）



記憶力



最近、記憶力が急に悪くなってしまって、何とかしたいのですが、どうすればよろしいでしょうか。

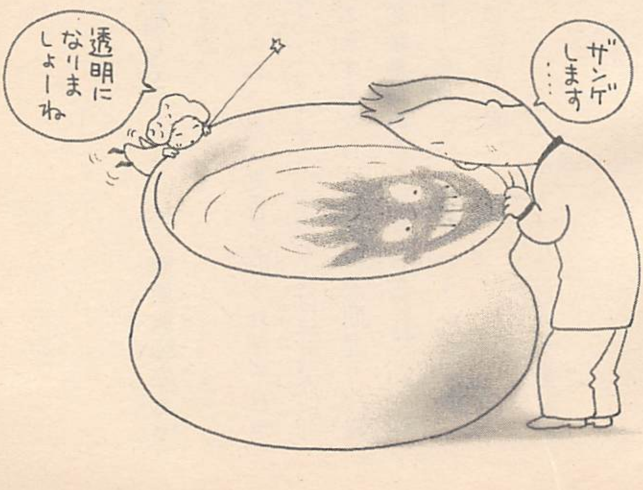


それは、心の浄化をなさるのが一番早いでしょうね。

心というのは水にたとえることができます。しかもそれは、瓶の中の水にたとえることができますね。例えば、ここに水があったとしましょう。もし、この水にいろいろな色がついていたら、正確に顔を映し出すことができると思いますか、できないと思いますか。できないですね。これが、貪りの状態です。では、もし、これが沸騰していたなら、正確に映し出すことができますか。映すことはできませんね。これが怒りの状態です。では、もしこの水が苔むした水草に覆われていたとしたなら、それは正確に顔を映し出すことができますか。できませんね。これが愚鈍な状態ですね。惛眠（こんみん）といいます。じゃあ、もし、風が巻き起こって、渦巻きができていたとしましょう。これは正確

に顔を映し出すことができますか。これは情報によって心が惑わされている状態ですね。

つまり、何を言いたいかというと、そういうものがいっさいなくなったとき、心は透明になるということです。透明になったとき、ありのままにすべてを映し出すことができます。これが、仏教的な考え方です。すべてをありのままに映すということは、記憶力も最もいい状態だということですね。だから、心を浄化なさるのがベストの方法でしょう。じゃあ、そのためにはどうしたらいいかというと、まず、ザンゲをすることです。心の中でザンゲすることと、他に対してザンゲすることと、この二つをまず実践なさるのがよろしいと思いますね。（八八年三月二十七日・東京本部）



勉強



僕は高校生なんですけれども、毎日学校で勉強していることは、麻原尊師のおっしゃる修行においては意味があるものなんですか。

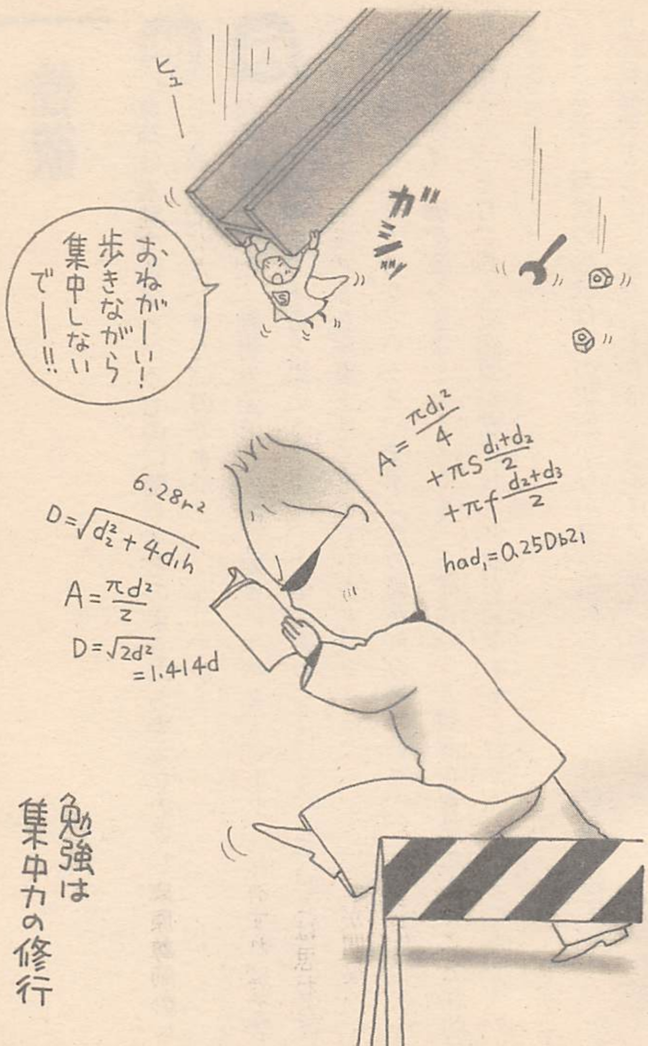


まず、修行に対して意味があるかどうかというのは、高い知性を有すればそれだけ高い理解力を有することができるわけだから、マイナスであるとは思わない。

ただ、教科の内容そのものにもし真理とのズレがあるとするならば、それが間違った観念を形成することになるから、そこのところは選択の余地があるということだね。

だから、勉強というものを一つの土台として、集中力を身につけるということにポイントを絞って勉学に励むならば、決してマイナスではないと思います。

（九一年十一月三日・東北大学）


ヒュー
ガシッ
おねがーい！
歩きながら
集中しない
でー!!
6.28r2
D=√(d2²+4d1h)
A=πd²/2
D=√2d²
=1.414d
A=πd1²/4
+πS (d1+d2)/2
+πf (d2+d3)/2
had1=0.25Db21
勉強は
集中力の修行

性欲



尊師は人間の性欲というものに関してどのようにお考えなのでしょうか。少し詳しく教えていただきたいのですが。



結論からいうと、動物の発情と雄性行動というパターン――これは生物学を学んでいたら理解できると思いますが――と全く変わらないと、わたしは自己の経験だけではなく、いろいろな現象を見て感じています。

それはどういうことかというと、まず女性の側からの発情が生じると。そしてそれに対して男性は、無意識の意識というよりも、正確にいうと超潜在意識によって男性的行動に出ると。そしてそこで恋愛が成立して性欲が発生するということが一般的なパターンであると。

ところが、現代の性欲はその状態からかなり屈折していて、視覚的・聴覚的に、かなり記憶修習をしていると。それは、例えばマンガ、あるいはアニメーション、あるいは

ポルノビデオ等で、絶えずそこでの喜びを視覚的に見たり聴覚的に聞いたりすることによる記憶修習をしていると。それによって、例えば女性型の発情がなくても、男性の方は雄性行動に出てしまうというパターンが存在するようになってきている。つまり、哀れな時代であるというのがわたしの印象です。

（九二年六月十七日・東京大学）



性格



人の性格で、ある人は臆病だとか、ある人はすごく怒りっぽいとかありますが、これは今生においての生活体験によってもできると思うんですが、前世のものが何か影響があるでしょうか。



あります。特に前世のカルマというのは背骨にあるイダー管、ピンガラ管、スシュムナー管ですね、それからチァクラにカルマは蓄積されますから、当然影響はあります。例えば怒りっぽい人というのはムーラダーラ・チァクラに引っ掛かりがあると。臆病な人は功徳が少なくて精力が弱いと。大嘘をつく人は左の気道が詰まっていると。こういうふうに、きちんとした形の理論があります。そして、それをわたしは知っていますので、百発百中でわかりますね、性格は。

（八七年十二月六日・名古屋支部）


かくれたって だめよ！
性格は 百発百中で わかります

謙虚さと卑屈さ



謙虚であるということと、卑屈であるということはどう違うのでしょうか。



つまり、あなたが得たものは得たと言いなさい。得ていないものは得ていないと言いなさい。それが正しい答えだ。わかるね。つまり、卑屈な場合は得ていても得ていないと言う。逆に、傲慢な場合は得ていないのに得たと言う。それは両方とも正しくない。得たものは、得たと言いなさい。得ていないものは得ていないと言いなさい。簡単だろう、これは。

（八八年四月九日・東京本部）

得たものは　得たと
得ていないものは　得ていないと
言いなさい

光の体験は？
ダルドリー・シッディは？
心の安定は？


化身の体験は？
ハイッ
ハイッ
ハイッ

プライド


プライドが強いと言われたんですけれども、プライドというカルマは取れるのでしょうか。


まず、人から非難されたとき、自己のカルマが落ちたんだと考えなさい。そして、先程言ったとおり、言葉を相手に話すときね、あなたが得たものは得たと、得ていないものは得ていないと話しなさい。そして、真理だけを話しなさい。

心の動きについては「マハー・ムドラー」の方法でいきなさい。つまり、心の動きは動きとして、じっと見つめるだけと。それによってイメージを起こすこともしなければ、行為することもしないと。それで、プライドが落ちます。わかるか。難しいか、今言っていることは。

一番初めのはいいよね。周りがあなたを非難したときは、それは自己のカルマが落ちたんだと考えなさい。プライドがあると反撃したくなるよね。でも、反撃してはならな

い。次にあなたが得たものは得たと。例えば、オウムに来て真理を知ったならば、真理を知ったと。幸福になったならば、幸福を得たと。例えば光を見たなら、光を見たと。例えばヴァイブレーションを感じたらヴァイブレーションを感じたという話をしなさい。



その他のことは、話してはいけないと。

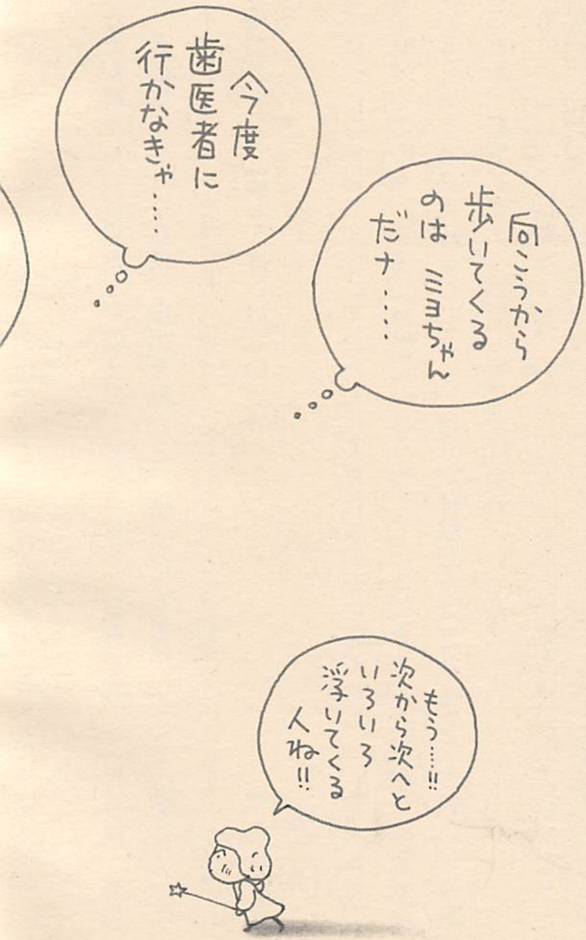


話してはいけないんじゃない。わたしはまだ得ていないんだけれど、経典にはこう書かれているとか、あるいは麻原はこう言っている、オウム真理教の解脱者はこう言っているという話の実践をしなさい。自分が経験したことは話してもいい。経験していないことを、経験したように話してはいけない。いいね。

　そして、もう一つは、心は動くよね、いろいろと。その心の動きに対しては、じっとただ見つめなさいと。そこからイメージをしてはいけない。例えば、学校の帰りでもいいし、あるいは会社の帰りでもいいけど、百メートル行くとラーメン屋さんがあるとする。あそこのラーメン屋さんはおいしいなっていうときに、そのラーメンをイメージするなと言っているんだ。もっとひどいのは、それで歩いて行って、ちゃんと右に曲がっ

て、真っすぐ百メートル行ってラーメンを食べると。わかるかな。ただ、浮いてきたものは、浮いてきたものとして、放っておきなさいと。消えてしまうから。

（八八年四月九日・東京本部）




本屋ができてる・・・・
そういえば昨日のカレーの残りがまだあったはずだ
ところでアトランティス大陸と古代エジプト文明との関係は・・・・

怒り



わたしは教師ですが、最近生徒を怒らなければならないと感じて、か―っと怒ったことがあるんですけど、その後とても苦しくて……。ただ、怒ったことによってその生徒自身は非常に自覚して良くなったとは思うのですが、そういうときはどう対処したらいいのでしょうか。



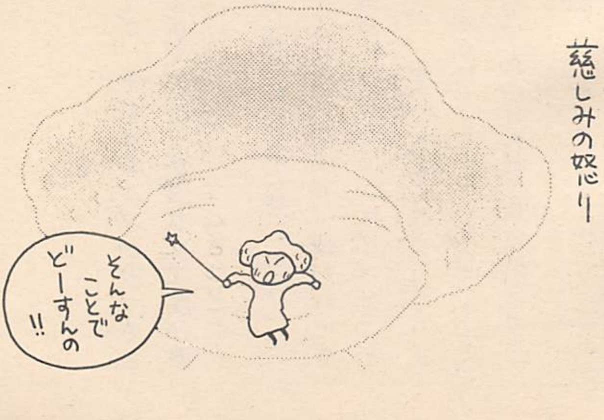
冷めて言ってあげなさい。そこは難しいけれどね。どういうことかというと、例えば怒る。しかし、顔を反対に向けたときには笑っていられる。こうなることです。つまり、本当に相手のことを考えていたら、そういうことができるわけだ、ね。

だから、教師の立場上、怒らなければ困ると思ってはいけないわけだ。子供の立場に立って、この子はここで怒ってあげなければ成長しないと思ったら怒らなければダメだ。成長しろよと思って怒ることだよ。自分の教師の立場というものがあって、その体面がまずいからとか、そんなことで怒るのとは全然違うわけだよ。だから絶えず、怒りなが

ら考えなさい。この人のためだ。この生徒のためだと。そうすれば即、怒りは収まります。怒りというエネルギーがあって、それに巻き込まれてはダメだよ。

じゃあ、それだと迫力がなくなると思うかもしれないけど、そんなことはない。今度実践しましょうか、わたしが。どれくらいの怒りをわたしが発散できるかということを。恐いよー。すごく恐いよ、本当に。しかし、その実は相手を慈しむための怒りなんだ。それが実践できるようになるといいね。

じゃあ、実際にはどうしたらいいか、という問題が出てくる。「発菩提心」をどんどんやりなさい。すると、怒ってもそれがあなたのための怒りではなく、相手のために怒るということになってくるから。そうすれば、絶対に地獄には落ちません。（八七年九月十四日・大阪支部）



カルマの解放



最近しょっちゅう悪口を言われることがあるのですが、それはカルマが返ってきているのだということはわかります。ただ、このままでカルマが落ちて二度と悪口を言われない状態にはなれるんでしょうか。



それについては、悪口を言われたときに、「わたしの過去になした悪口のカルマ、あるいは人に対して、嫌悪した心の働きが現象化している、つまり、現われてきてるんだ」というふうに考えて、そして「ああカルマが落ちてほんとにうれしいな」という心が持ち続けられたら、そんなに長い時間かからなくて、悪口を言われなくなります。そのときには、悪口のカルマは落ち切ったんだというふうに考えていいと思います。だから、しっかり頑張ってくださいね。

（九二年六月九日・仙台読売ホール）


何のカルマかしら
ハデね……
キャー
ハハハ
つるん
ボコッ
カプッ
ウ～
とりあえずウレシイ!!

カルマ



人に優しくすると、それがかえって自分の首を締めるというか、利用されたり誤解されたりする場合がままあるわけですよね。それでもやはり、優しくすべきなんでしょうか。



あのね、そのときはこう考えなさい。わたしは大変な恩恵をその人から受けた、と。過去において、わたしはその人を傷つけた。その傷つけたものが、今返ってきているんだ。わたしは、これによってカルマを滅することができた、と考えてごらんなさい。その段階でね、もっと人に優しくしてあげようと考えるだろう。ちょっと難しいね。でも、わたしはそれを実践しているよ。難しいけれどね。あなたもそれを実践することによって、必ず高いステージに到達できるだろう。

（八七年九月十四日・大阪支部）


カルマ落としを
おそれずに!!
ボク落ちたヨ
ホラ…
何をされたの！
ギャー～
カルマが返ってきてよかったネ

果報



私は医者で、患者さんに検査のために筋肉に針を刺したり、あるいは手足に電気を流したり、非常に痛い思いをさせてるんですけど、それは悪いカルマになるんでしょうか。



それは、こういうカルマになると考えなさい。まず、相手のことを正しく検査しようと思ってやっているわけだね。あるいは、正しく治療しようと思ってやっているわけだね。だとしたならば、あなたに病が生じたとき、今生ではないかもしれない、あるいは今生かもしれないけれど、必ずその苦痛は返ってくる。しかし、あなたの巡り合う医師は、あなたを良くしようと思って、同じように苦痛を与える。そういう条件で苦痛が返ってくると考えてください。

だから要するに、心の持ち方だよね。この人を治してあげたいという一心でやっているならば、その条件であなたも苦しまなきゃならない。で、その苦しみというのは、あ

なたの病気を取り除くために必要な苦しみだということだね。だからそれは問題ありません。

（八八年一月十七日・福岡支部）



結果



オウム真理教では病気はすべてカルマから生じているといわれていますけど、病院で治療することは無意味なものなのか、それとも意味あるものなのでしょうか。病気というのは苦しみですよね、その苦しみを取るということは、すごく大事なことじゃないかって思うのですが。



仏典の中にね、こういう話がある。先程、あるバラモンの奥さんの夫、息子、息子の嫁、そして召し使いが餓鬼道に落ちたという話をしたよね。そのときある偉大な修行者がね、そのヴィジョンを追って、その餓鬼の世界へ入ったと。そしてそのもとバラモンの奥さん――この人は、四人の餓鬼を心配して、本当はもっと高い世界へ転生できるのに一緒に餓鬼の世界へ転生した魂なんだけれどもね――この人に布施してもらった食事を、あまりにもその四人の餓鬼が苦しんでいたから、その食べ物を渡したわけだ。そうしたら、ある者は食おうとした瞬間、食い物が消えて手に噛みついてしまっ

た。ある者は食べ物が豆がらに変わってしまった。ある者の食べ物は血と膿に変わった。ある者はもらったものが焼けた鉄に変わってしまった。

この場合、その食い物を与えた人は、いいことをしたことになると思うか、悪いことをしたことになると思うか。どうだ。



本質的には悪いと思います。



そうだね。では、もう一つ聞こう。ここに病人がいたとしようじゃないか。この人は大変な悪業によって、今、苦しんでいるとしようじゃないか。そして少し悔いる気持ちが出てきたと。わたしはあれだけ悪いことをしたから、今このように苦しい状態であると。そこに名医が登場して、手術をして治してしまった。で、その人は治った瞬間、その悔いる気持ちがなくなって、また悪業を積み続けると。そして、命終わって地獄へ落ちたとしようじゃないか。これは、いいことだと思うか、悪いことだと思うか。わかるね。すごく、そこは難しい問題なんだ。だから、一概にいいとも言えないし、悪いとも言えないいんだ。

例えば逆のパターンがあるよね。ここに病気で苦しんでいて、少し悔いて、その病気と闘った人がいたとしようじゃないか。で、その病気を治す人が真理を知っていて、真理を説きながら病気を治してあげたと。で、その人はそこで改心をして、一所懸命真理を実践し、功徳を積んで悪業を滅して、そして死んだと。それによって、餓鬼道あるいは動物界へ生まれ変わるはずだったのが、人間界、あるいは阿修羅界、あるいは天界へ生まれ変わったとしようじゃないか。これはいいことをしたと思うか。悪いことをしたと思うか。

だから背景となるものは結果だね。結果っていうのは、そこで病気で苦しんでいる人がいた。そして、それを治したら、治した人は功徳になるよ。それはいえる。しかし、もっと大切なことは、その苦しんでいる人のカルマの状態を見て、どちらの道を選ぶかという結果だ。

実は、わたしはかなり修行中悪いことをやっていたんだね。その悪いこととは何かというと、電車に座るよね。そうすると七十歳くらい、あるいは八十歳くらいの人がこうやって、もう体が弱くてフラフラして立っていらっしゃると。しかし、わたしは平気で

瞑想しているわけだ。普通だったら「一日一善」の話もあるくらいだから、パッと席を代わらなきゃならない。しかし、代わらないんだよ。なぜかというと、じっとエネルギーを見ると、カルマを見るとすごく悪いと。ここで代わってあげたならば、この人は楽をするから悪業を消滅しないだろうと考えた。

どうだ、どちらが楽だと思うか。立って、代わってあげて、楽をさせてあげるのと、それとも、じっと耐えて、ね、周りはわたしを変な目で見るわけだ、ジロッと。それに耐えながら、ただ瞑想しているふりをするのとね、どちらが偉大だと思うか。どちらが大変だと思うか。

そして、その背景にはこの人ができるだけ高い世界へ、次に転生してほしいという気持ちがあったわけだね。難しいと思わないか？　深いと思わないか？　そこまで、皆さんがすべてのことに対して考えてくださると、わたしはすごくうれしいね。

（八八年四月九日・東京本部）

第5章　病は癒える

治療

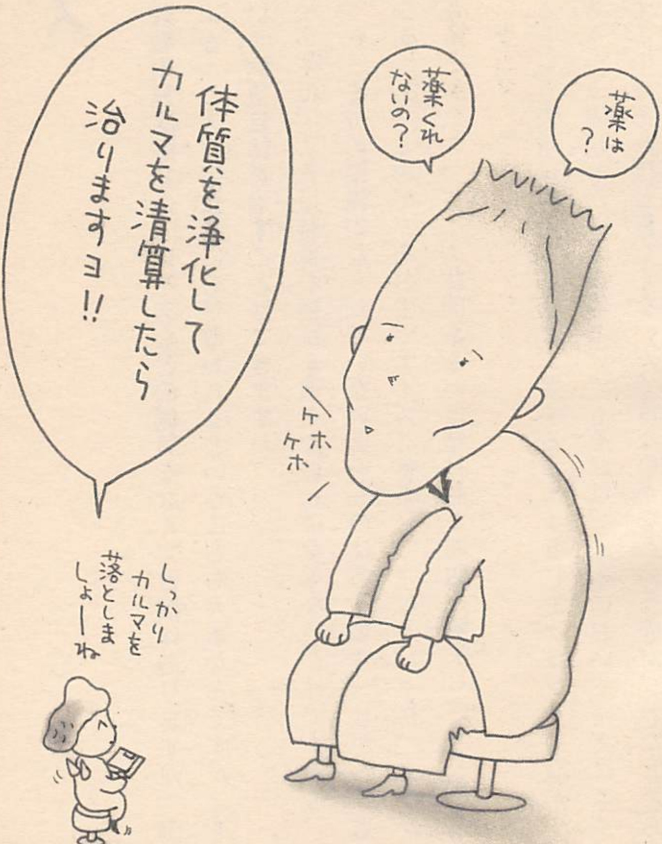


病気を治すということは、カルマを清算することになるのでしょうか。



やり方によって、カルマは消えたり、消えなかったりしますね。つまり、俗に言うところの、病気を押さえ込む場合には消えません。病気の本質を取り除けば、それは消えます。インド・ヨーガでは、心の三毒（貪・瞋・癡）から粘液、胆汁、風の三つの体質が生じるとされています。だから、その三つの体質を浄化してこそ、本当の意味でカルマは清算できます。逆に、単に薬を投与して、一時的に症状を押さえるというのは、本質的なカルマの清算にはなりません。よろしいですか。

（八八年一月十七日・福岡支部）



薬は？
薬くれないの？
体質を浄化してカルマを清算したら治りますヨ!!
ケホケホ
しっかりカルマを落としましょーね

エイズ



オウム真理教附属医院では、エイズなどの病気をなくす自信はありますか。例えばエイズになった人が宗教的に心が救われるということも大事なんですが、それ以上にエイズという病気自体を治すことはできますか。



エイズについては、これは特殊な病院を造らなければならないわけですから、今のところ、そこまでの準備がなされていないというのはあります。しかし、当然信徒さんも多くいらっしゃるので、その中でエイズに感染していらっしゃり、オウム真理教の修行を行なうことによって、肉体的あるいは精神的な問題を解決しつつある人は、若干名います。

この若干名いるという表現は何かというと、要するにあまりにもクランケの数が少ないがゆえに、今そういう表現しかできないと。でもそれは、未来において確実にエイズそのものを撲滅するのはそれほど難しくないんではないかなというのが、わたしたちの

今の考え方です。

今の話をね、少し詳しく述べるならば、例えばエイズ感染の予防として、オウム真理教が行なっているのは、エイズウイルスというのはだいたい五十度の温度、約三十分ぐらいで完全にウイルスそのものは死滅しますから、それより高い体温の状態を形成するとか、そういうことが可能なのかどうかの実験をし出しているというかな、まあそういうふうにとらえていただいたら結構だと思います。

（九二年六月十七日・東京大学）



リューマチ



わたしは十七年前にリューマチになりまして、薬を飲み過ぎたせいか肝硬変になりまして、現在、橋本病で病気ばっかりなんですね。で、今歯の治療をしておりまして、歯の麻酔を打ちましたら、右の頭、後頭部全部痺れて麻痺したような状態と、それから左の方の歯の治療をしましたら、左のほっぺたの方が全部麻痺しておりまして、リューマチの方は左半分がほとんど動かないような状態で、足も痛いんです。むくんでおりますし、たいへん痛いんです。治るでしょうか。



これは難しいですね。かなり時間はかかると思いますね。例えば一年とか二年とかね。まず、症状の軽減から、長い時間をかけてゆっくり治療なさるといいと思うんですよ。で、その方法としては、今の話をお聞きしていますと、粘液とそれから胆汁の異常と。で、エレメントとしては風と、それから火元素のね、異常が背景となっていますから、そこのところをね、きちんと浄化なさると変わってくると思います。しか

し大変難しいですね、これはね。これも具体的な方法につきましてはね、あとで弟子の方から指導があると思いますので受けてください。

（八九年四月十四日・東京本部）



筋ジストロフィー



友人が筋ジストロフィーになってしまいまして、「もうわたしは難病指定なんだから」という感じで、体よりも心の方が沈み込んでしまって、もうわたしはこの難病で治らないみたいな気持ちを固めてしまっているんですね。なんとか治してあげたいのですが、筋肉の病気なので地元素のトラブルなのでしょうか。



そうですね。それからあとは火元素が弱いんだね。筋ジストロフィーとか、そういうものはアストラルのデータのね、火元素が弱い場合が多いです。だからわたしは、重症筋無力症だとか、あるいは筋ジストロフィーだとかいわれている病は、案外簡単に治るんじゃないかなと考えていますね。治験例も一つ二つはあるけどね、オウムには。

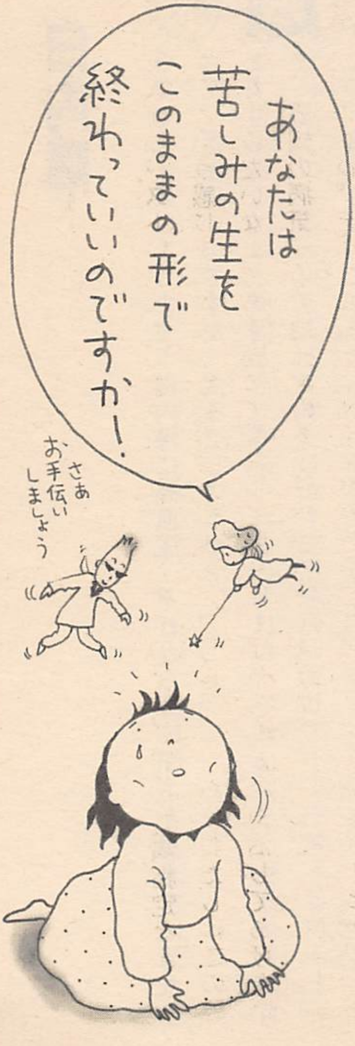


ここに通い始めればわりと簡単なのかもしれないんですけど、その前に心の問題として、難病指定なんだっていうので、自分の中に殻を作ってしまっているんです。



そこでね、聞かなきゃならないことは、ではあなた、難病指定という烙印を押されて、このまま苦しみの生をこのままの形で終わっていいと思いますかと。で、それで、もしいいとお考えになるんだったら、これはいかなる人があなたにアドバイスをしたとしても、効果がないでしょうと。しかしそうではなくて、もし今から何とか脱却したいとそう試みられるんだったら、それはお手伝いできますよという言い方がいいだろうね。

（八九年四月十四日・東京本部）



白内障

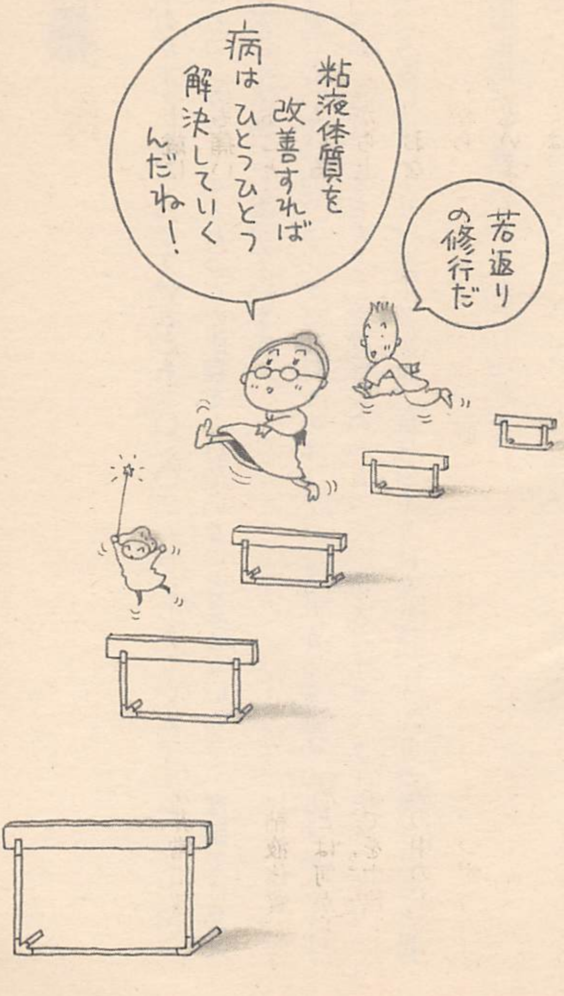


今年で九十歳になります。白内障に高血圧、それから耳の聞こえが非常に落ちてきて、足も痛いのですが、治るでしょうか。



まず言えることは、原因として考えられることはね、それは完全に粘液体質が背景になっているということです。しかも三焦（さんしょう）といいまして——三焦とは何かというと、この、胸から上、これを上焦（じょうしょう）といいます。そして、おなかから胸までを中焦（ちゅうしょう）といいます。そして、おなかから下を下焦（けしょう）というわけですけれども、その三焦の中の上焦の病であると。だから、それはきちんとした原則をもとにね、修行なされば一つずつ病は解決していくと思います。

で、順番としては、まず血圧の正常な状態から入るでしょうね。それから次に、耳の聞こえが良くなってくると。そして、三番目に足の痛みですか、それが取れてくると。そして、最後に目の病が癒えてくると。そのような順番で治っていくと思います。



（八九年四月十四日・東京本部）

弱視


視力がすごく弱いんですけれども、〇・〇三くらいしかないんですね。で、やっぱりコンタクトを入れるとか眼鏡をかけていないと見えないいんで、裸眼では見えないのはすごく不便だし困っています。


それについてはね、ネーティ、ひものネーティ、それから普通のぬるま湯のネーティね、これはきちんとした操作にのっとって、例えば十リッターとか二十リッターとか、あるいは三十リッターとかね、毎日おやりになれば、かなり改善されると思います。


原因は何だと考えられるんでしょうか。


二つあると思いますね。一つは、心の問題でいくとね、ストレスと。それからもう一つは、無智といったらいいのかな、それが原因であると。それから食べ物に

おいては、やはり粘液体質になりやすい食べ物を取っているということですね。だから鼻腔（びくう）、あるいは上焦周辺の粘液の量をね、減らすことによってそれは取り除くことができるんじゃないかと思いますね。現に、それで効果を発揮している人もいますからね。

（八九年四月十四日・東京本部）



アレルギー



姉がアレルギー性の皮膚炎等のアレルギー性の病気を持っているのですが、そういうものを治すにはどうしたらよいでしょうか。



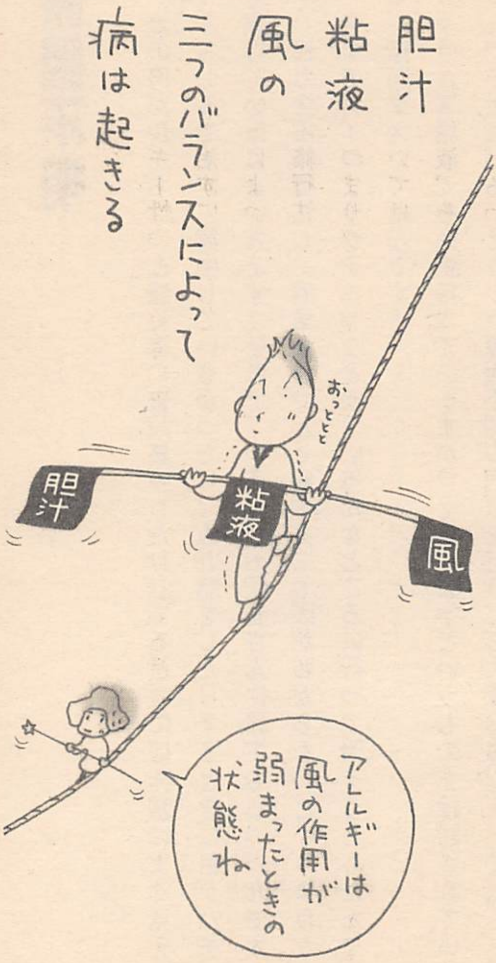
肉体的原因によって生じているアレルギー性の問題であれば、それは浄化法といわれている修行法があります。で、それがもし心の問題であるとするならば、それは一種のポア、つまり意識を移し変える訓練をすることによって消すことができます。

で、浄化法については、なぜそれを行なうのかというと、インド・ヨーガの考え方としては、胆汁、粘液、それから風（ふう）の三つのバランスによってわたしたちは病にかかるというふうに考えているわけです。ですから、胆汁・粘液、それから風というのは肉体を通過しているエネルギーのことですが、この三つのコントロールをすることによって、アレルギー性の疾患は治るということはいえるでしょう。

で、アレルギー性疾患は、その三つの胆汁・粘液・風のどれに属すのかというと、一

般的には風の作用が弱まったときの状態であるということができますから、その風の状態を強めるような肉体を浄化する修行法を行なえばいいと思います。

具体的には、後で師の方からの指導を受けてください。（九二年六月十四日・名古屋大学）



原因不明



妻の母が目がちょっと悪くて、普段集中したりしてるときには非常によく見えるらしいんですが、集中していなかったり、人と話をしたりするときに目がパチパチして開けていられないんです。それで、いろんなお医者さんに診てもらったんですけれども、目も全部綺麗だし、病気もないと。要するに原因がわからないというようなことで、今までカイロプラクティックとか、いろんなところに行って治そうとしたんですけども、結局ダメだったんです。

で、オウム真理教でも病院持っていますが、そこで医学というものを検討されていると思うんですけれども、そういう原因不明の病気をどうとらえているのでしょうか。



いや、それについては、意識の緊張が原因だと思いますから、生起のサマディと究竟のサマディの、つまり、精神集中と弛緩のプロセスを繰り返し繰り返し行なうことによって、大丈夫だと思いますよ、それは。


あ、治るんですか。


ええ、治るというよりも病気でも何でもないと思いますから。病気だったら大変ですけれど、病気じゃないと思いますから、単なる心の緊張だと思いますから。それは明らかに普段の生活の状態が中途半端な緊張状態であると見るべきなんだよね。だからそれについては、逆にリラックスを徹底的にさせる、つまり集中を強烈にさせて、そのあとリラックスさせることを繰り返すことによって、それは普通の状態になります。

（九一年十一月二十三日・東京大学）



下痢



小さい頃から下痢をよくしてたんですよね。いまだに、下痢とか便秘とかよく起こるんです。そして、体の左側がおかしいんですよ。しょっちゅう左が……。



やっぱり、体が冷えるでしょう。身体にはねイダー、ピンガラ、スシュムナーという三つの管があります。イダーというのは左の気道と。それからピンガラというのは、右の気道と。スシュムナーというのは真ん中の気道と。あなたの場合その左の気道が詰まっているんでしょうね。

これは、嘘のカルマが強くて、自己の状態がよく理解できないタマス状態（愚鈍なタマス・エネルギー優位の状態）に陥っていると考えていいと思います。下痢と便秘を繰り返すというのも、これは自律神経失調症であり、自律神経が状態を把握できなくて、コントロールできなくなっているんですね。これも左の気道の詰まりと関係しています。

ですから、それを乗り越えるためにはどうしたらいいかというと、左の気道の浄化を

行なえばいいと。そしてそれには、いろんなテクニックがあります。そして、ケース・バイ・ケースによって、指導を変えなきゃなりませんから、今、一概に答えることはできませんけれども、おそらく、そうですね、三カ月から半年くらいかかるんじゃないでしょうかね、それを乗り越えるためには。

（八八年五月二十九日・札幌支部）

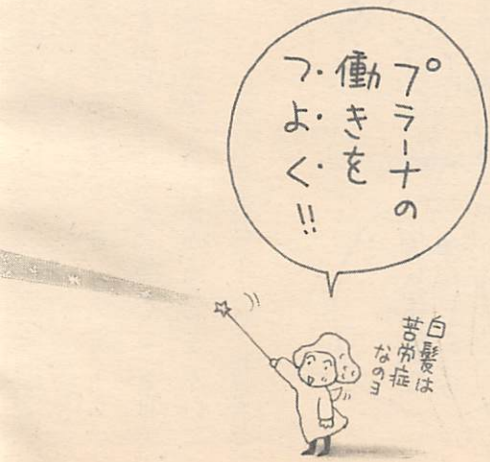


白髪

白髪がすごいんですけど、これは治りますか。

大丈夫だと思いますよ。わたしも白髪はすごかったからね。シャクティーパットをやって、少し白髪がまた出てきたけれども、プラーナの働きが強くなれば必ず治りますよ。安心してください。

何か、体質的なものなんでしょうか。



苦労症なんじゃないかな。心が揺れ動くってことはないですか、強く。

いつもです。

揺れているでしょう。その影響だよ、それは。だからその微細な心の働き、つまりプロセスとしてそれがあるんです、先程言ったとおり。それを通過したら逆に消えると。そういうふうにお考えください。

（八八年五月二十九日・札幌支部）



※オウム真理教では、本来の意味を正確に表わしていない既製の仏教用語は用いず、パーリ語原典を忠実に翻訳し、吟味した結果、決定した訳語を使っています。以下に、代表的な言葉の対比表を掲げますので参照してください。また、仏教・ヨーガの言語対比表も参考までに掲載しました。

◆言語対比表

欲界→愛欲界
無間地獄→超期間激苦地獄
叫喚地獄→号叫激苦地獄
鉢特摩地獄→紅蓮華のような状態になる激苦地獄
餓鬼→低級霊

阿修羅→不飲酒天
憤怒天→意識堕落天
戯忘天→戯れ堕落天
地居天→地上愛欲神天
四天王衆天→四大王天
持国天→堅固王国天
増長天→成長天
広目天→統治変化自在天空天
毘沙門天、多聞天→守庶民外傷天
夜叉→人食い鬼神
忉利天→三十三天
帝釈天→有能神
夜摩天→支配流転双生児天
閻魔王→支配流転双生児王
兜率天→除冷淡天

楽変化天、化楽天→創造満足天
他化自在天→為他神以神通創造欲望満足従事天

悪魔→破滅天

色界→形状界
梵天→神聖天
梵衆天→神聖衆愛欲神天
梵輔天→神聖臣天
大梵天→大神聖天
浄天→美天
遍浄天→総美愛欲本質神天
広果天→偉大果報愛欲本質神天
浄居天→清潔居住天
無煩天→超空間愛欲神天

無熱天→超燃焼愛欲神天
善現天→善安楽愛欲神天
善見天→善現象愛欲神天
色究竟天→超越童子愛欲本質神天

無色界→非形状界
空無辺処→空間無辺境
識無辺処→識別無辺境
無所有処→無所有境
非想非非想処→非認知非非認知境

想受滅→認知経験滅尽

須弥山→完全無欠山
東勝身洲→東の高貴なる身体を得る大陸
南贍部洲、閻浮提→南のバラリンゴの大陸
西牛貨洲→西の願いがかなう牛の大陸
北倶盧洲→北の悪しき音の大陸

成劫→再生期
住劫→継続期
壊劫→還元期

釈迦牟尼→サキャ神賢
如来→真理勝者
応供→供養値魂
正等覚→最上正覚者
明行足→智徳成就者

善逝→最上善逝
世間解→世間解（変更なし）
無上士→無上士（変更なし）
調御丈夫→丈夫調御者
天人師→天人師（変更なし）
仏陀→覚者
世尊→世尊（変更なし）

菩薩→到達真智運命魂
比丘→向煩悩滅尽多学男
比丘尼→向煩悩滅尽多学女
優婆塞→帰依信男
優婆夷→帰依信女
僧伽→出家教団
長老→高弟

声聞→多学の弟子
沙門→出家修行者
沙弥→少年出家者
遊行者→托鉢修行者

バラモン→祭司
クシャトリヤ→武人
ヴァイシャ→庶民
シュードラ→奴隷

四双八輩→四対の人々・八つの宗教的特性を持つ人々
預流→真理の流れに入ること
一来→（愛欲界に）一度だけ再生すること
不還→不還（変更なし）

阿羅漢→供養値魂
四預流支→四つの真理の流れに入る段階
四聖諦→四つの聖なる絶対の真理
苦聖諦→苦しみの聖なる絶対の真理
集聖諦→苦しみの生起の聖なる絶対の真理
滅聖諦→苦しみの滅尽の聖なる絶対の真理
道聖諦→苦しみの滅尽に至る方法の聖なる絶対の真理
四念処→四つの記憶修習述

四正断、四正勤→四つの正しい努力

四如意足→四つの如意の基礎
- 欲如意足→決意如意の基礎
- 精進如意足→精進如意の基礎
- 心如意足→思念如意の基礎
- 観如意足→観慧如意の基礎

五根→五つの潜在性
- 信根→信の潜在性
- 精進根→精進の潜在性
- 念根→記憶修習の潜在性
- 定根→サマディの潜在性
- 慧根→智慧の潜在性

五力→五つの能力
- 信力→信の能力
- 精進力→精進の能力
- 念力→記憶修習の能力
- 定力→サマディの能力
- 慧力→智慧の能力

七覚支→七つの覚醒段階
- 念覚支→記憶修習正覚段階
- 択法覚支→検討正覚段階
- 精進覚支→精進正覚段階
- 喜覚支→喜正覚段階
- 軽安覚支→静寂正覚段階
- 定覚支→サマディ正覚段階
- 捨覚支→無頓着正覚段階

八正道→聖なる八段階の道
正見→正見解
正思惟→正思惟（変更なし）
正語→正語（変更なし）
正業→正行為
正命→正生活
正精進→正奮闘
正念→正記憶修習
正定→正サマディ

三苦→三つの苦しみの本質
苦苦→苦しみの苦しみの本質
行苦→悪い経験の構成の苦しみの本質
壊苦→悪化の苦しみの本質

三受→三つの感覚
楽受→楽の感覚
苦受→苦しみの感覚
不苦不楽受→不苦不楽の感覚

四無量心
慈→聖慈愛
悲→聖哀れみ
喜→聖称賛
捨→聖無頓着

五取蘊→五つのとらわれの集積
色取蘊→形状-容姿のとらわれの集積
受取蘊→感覚のとらわれの集積
想取蘊→表象のとらわれの集積

行取蘊→経験の構成のとらわれの集積
識取蘊→識別のとらわれの集積

五蓋→五つの障害
貪欲蓋→愛欲の衝動による障害
瞋恚蓋→害心による障害
惛眠蓋→頑固と愚鈍による障害
掉悔蓋→興奮と後悔による障害
疑蓋→疑念による障害

五妙欲→五つの愛欲の構成部分
色→形状・容姿
声→声
香→香り
味→味

触→接触

五下分結→五つの下位に結びつけるきずな
有身見→有身謬見
疑→疑念
戒禁取→戒誓のとらわれ
貪欲→愛欲の衝動
瞋恚→害心

五上分結→五つの上位に結びつけるきずな
色貪→形状愛著
無色貪→非形状愛著
慢→慢（変更なし）
掉挙→興奮
無明→非神秘力

八解脱→八つの離解脱
八勝処→八つの克服境
十遍処→十全境
十波羅蜜→十の徹底
十二縁起の法→十二の条件生起の段階
無明→非神秘力
行→経験の構成
識→識別
名色→心の要素-形状-容姿
六処→六つの感覚要素と対象
触→接触
受→感覚
愛→渇愛
取→とらわれ

有→生存
生→出生
苦→苦しみ
信→信（変更なし）
悦→歓喜
喜→喜（変更なし）
軽安→静寂
楽→楽（変更なし）
三昧→サマディ
如実知見→如実精通見解
遠離→現世否定
離貪→離愛著
解脱→離解脱

涅槃→煩悩破壊
般涅槃→完全煩悩破壊
中般涅槃→中 完全煩悩破壊
生般涅槃→減少 完全煩悩破壊
無行般涅槃→形状界にて経験の構成がなく功徳の果報を受けつつある完全煩悩破壊
有行般涅槃→形状界にて経験の構成があり真理の実践による完全煩悩破壊
一種者→一つの種子を持つ者
家家者→徳の高い家から家へと転生する者
極七返→最高七回流転者

正智→正精通
正解脱→正離解脱
心解脱→心の離解脱
慧解脱→智慧の離解脱
殺生→殺生（変更なし）
偸盗→与えられないものを強奪すること
邪淫→愛欲における邪悪な行為
妄語→嘘の言い方
綺語→軽薄語
悪口→乱暴な言葉
両舌→中傷の言葉
貪→愛著
瞋→邪悪心
癡→迷妄

愁（しゅう）→不運（ふうん）な出来事（できごと）
悲（ひ）→悲嘆（ひたん）
苦（く）→苦（くる）しみ
憂（ゆう）→激痛（げきつう）
悩（のう）→悩（なや）み

五趣（ごしゅ）→五（いつ）つの方向（ほうこう）
善趣（ぜんしゅ）→幸福（こうふく）に向（む）かうこと
悪趣（あくしゅ）→悲痛（ひつう）に向（む）かうこと

カルマ→要素（ようそ）の蓄積（ちくせき）
法（ほう）→法則（ほうそく）
梵行（ぼんぎょう）→神聖行（しんせいぎょう）
布薩（ふさつ）→戒誓行（かいせいぎょう）
波羅提木叉（はらだいもくしゃ）→約束維持解放（やくそくいじかいほう）

頭陀（ずだ）→断修行障礙（だんしゅぎょうしょうげ）
袈裟衣（けさい）→赤（あか）っぽい黄色（きいろ）の衣（ころも）
衆生（しゅじょう）→生命体（せいめいたい）
四大種（しだいしゅ）→四大元素（しだいげんそ）
本生経（ほんじょうきょう）→輪廻転生談（りんねてんしょうだん）

◆仏教・ヨーガ　言語対比表

愛欲界（あいよくかい）―現象界（げんしょうかい）
形状界（けいじょうかい）―アストラル世界（せかい）
非形状界（ひけいじょうかい）―コーザル世界（せかい）
愛著（あいじゃく）―サットヴァ
邪悪心（じゃあくしん）―ラジャス
迷妄（めいもう）―タマス



あなたに絶対の幸福を約束する

——オウム真理教

心身の悩みを解決したい
超健康体を得たい
豊かな生活を送りたい
素晴らしい人間関係を築きたい
スーパー・パワーを身につけたい
来世も幸福に生きたい
解脱し、永遠の至福を得たい

最高の教義、最高の奥儀、そして麻原尊師のもと、すべては確実に実現します。

●オウム真理教が誇る三つの基本的修行体系

1、マハーヤーナ

現実生活をより豊かにし、幸福な人生をお約束します。ご年輩の方、仕事が忙しく時間のあまり取れない方にお勧めです。

2、タントラ・ヴァジラヤーナ

行法、イニシエーションを中心として進め、霊性を向上させて、神秘世界を実体験することができます。この修行体系を選択すれば今生で解脱し、悟ることも夢ではありません。

3、テーラヴァーダ

原始仏教の上座部仏教を再現しました。真理にのっとって清浄な日常生活を送ることによって、幸せな来世が約束されます。また、経典の記憶修習によって心の成熟が促され、悟りを得ることが可能です。オウム真理教の深遠な教義を徹底的に学びたい方に最適です。

※資料請求券を貼付けしたハガキ、または電話にて最寄りの本・支部までご連絡ください。入信案内等、詳しい資料をお送りします。

キリトリ線

尊師に聞く！2
資料請求券

ズバリ！ 真理のメッセージ

リオン・テス・バシレイアス」

中波 720kHz　　毎日23:00～ 1:00
短波 日本語放送　毎日22:00～23:00

11月1日～3月6日　7.310MHz
3月7日～5月　　15.315MHz

英語放送（朝）毎日 5:30～ 6:00
（昼）毎日 1:30～ 2:00

※今週の聴きどころなどを毎日紹介。
便利なテレホンサービスもぜひご利用を。
TEL 03（5370）1608

※タイアップマガジン 定期購読受付中！

「えんじょい・はぴねす」



※詳しいお問い合わせは、
「エウアンゲリオン・テス・バシレイアス」係まで。
TEL 03（3335）4965

モスクワからあなたに——

オウム真理教放送「エウアンゲ



尊師の声が
あなたの耳を直撃！

麻原尊師が電波にのってあなたのもとへ。
宗教、音楽、科学、神秘……。
盛りだくさんの内容と、
次から次への新しい発見で
眠気も吹っ飛ぶこの時間！
さあ、あなたも今日から尊師を聴こう！

船橋支部　0474(66)4965
〒274　千葉県船橋市新高根6-26-18
那覇支部　098(869)7707
〒902　沖縄県那覇市安里2-4-12 嘉数グラビアハイツ5F
堺支部　0722(21)1843
〒590　大阪府堺市海山町4-168-9
高崎支部　0273(46)1573
〒370-12　群馬県高崎市倉賀野町 下稲荷前1081-5
福井支部　0776 (26) 6145
〒910　福井県福井市御幸3-3-41 東伸ビル2F
松本支部　0263(28)7429
〒399　長野県松本市芳川野溝527-3
深谷出張所　0485(74)6205
〒366　埼玉県深谷市萱場441-8
渋谷出張所　03(3476)5065
〒150　東京都渋谷区道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂317号

〈海外支部〉
ニューヨーク支部　212(421)3687
8 East 48th St. #2E (2nd Floor), New York, N.Y. 10017 U.S.A.
ボン支部　(0228)616647
Auf dem Hugel 48, Endenich, 5300 Bonn 1, S.R.Germany
スリランカ支部
(AUM SACCA SANGHA ASSOCIATION)
Horahena, Watte, Angulugaha, Galle, Sri Lanka
モスクワ支部　095-451-62-41
Kindergarten No.468 ul. Dybenko, 6A, Moscow, 125475, Russia



この本をお読みになって、どのような感想をお持ちになりましたか。あなたのご意見を、ぜひ下記の「『尊師に聞く！』読者係」までお送りください。

〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
オウム出版「『尊師に聞く！』読者係」

◆各道場のご案内◆

富士山総本部　0544(54)1267
〒418-01　静岡県富士宮市人穴381-1
東京本部　03(3327)8565
〒156　東京都世田谷区赤堤2-42-5 杉田村松ビル1F
新東京本部　03(3396)9393
〒167　東京都杉並区下井草4-4-4 井口ビル2F
大阪支部　06(397)1022
〒532　大阪府大阪市淀川区西宮原1-8-14 八光ビル2F
福岡支部　092(474)2877
〒812　福岡県福岡市博多区博多駅前2-6-15 第一渡部ビル6F
名古屋支部　052(252)0709
〒460　愛知県名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル3F
札幌支部　011(241)4938
〒060　北海道札幌市中央区北2条西2丁目19-1 チサンホテル本館2F
京都支部　075(371)3759
〒600　京都府京都市下京区堀川通り松原上ル五軒町384 松本ビル2F
仙台支部　022(268)3904
〒982　宮城県仙台市若林区河原町1-4-20 十全会ビル2F
金沢支部　0762(51)8457
〒920　石川県金沢市京町25-20 ソフトオフィスビル2+4 2F
高知支部　0888(84)8286
〒780　高知県高知市はりまや町2-8-8 安藤ビル2F
広島支部　082(264)6250
〒732　広島県広島市南区西蟹屋4-4-18 和田ビル3F
横浜支部　045(243)8079
〒231　神奈川県横浜市中区若葉町3-41-2 コスモ伊勢佐木長者町ビル204
和歌山支部　0734(24)2859
〒640　和歌山県和歌山市駿河町42 和歌山酒販会館2F
水戸支部　0292(26)8044
〒310　茨城県水戸市中央2-2-1 HDビル6F

尊師に聞く！

2



1992年12月24日・初版発行

定　価 ―――― 600円
発行者 ―――― 松本知子
石井久子
編　集 ―――― AUM Public Relations Editorial Staff
発　行 ―――― 株式会社オウム
〒154 東京都世田谷区世田谷2-8-17
ＴＥＬ　03(3439)6043
振　替　東京2－109325
※乱丁·落丁はお取り替えいたします

ISBN4-87142-060-4 C0014 P600E

尊師に聞く!



ISBN4-87142-060-4 C0014 P600E 定価600円(本体582円)